京城日報

大正十一年一月五日　THE KEIJO NIPPO　（水曜日）　第四千七百四十三號　（一）

本紙定價　一部金五錢▲一ヶ月…▲六ヶ月同…▲一ヶ年同…　編輯兼發行人　小川三之介　發行所　京城府太平通一丁目　合資會社京城日報社　電話番號…（振替京城…）

歷史上より見たる 朝鮮の統治

文學博士　白鳥庫吉氏談

南方へ漢民族が 發展した時代に

は北方に於ては次第に勢力が衰へ鴨緑江の東は統治の地となり樂浪郡の北東はツングース民族の支配する所となつて居た丁度其時に南方朝鮮は辰韓、馬韓、弁韓の小部落を爲して居ましたが之れ等の地は漢に服せず小獨立國を成して居た又大同江以北の方面に於いても漢民族は遼東の地ミ連絡が絕へた爲に高句麗が起つて來た其れは西の方支那が大戰亂ミなつた爲めである高句麗は契丹を取りました當時の樂浪郡、帶方郡でありますが更に高句麗は發展して南滿洲の地をも取りました是れは南方が衰へ北方人は武勇なる爲でありました、三韓は其後變つて辰韓十二國が新羅ミなり馬韓五十四國が百濟ミなり弁韓十二國が任那ミして存在しましたが任那は日本の治下にあつたのです高句麗の壓迫の爲めに三國共に結合して居ました其頃より新羅、百濟も日本に朝貢したのであります、日本は三韓の依賴に依り高句麗を征めんこした事もありますが歷史は過去も將來も同じここで整理が就くミ新羅は大に野心を起しました新羅は日本の勢力を驅逐する爲めに高句麗を利用して大に策を廻らして居た丁度日清、日露の戰爭の起りこ同じであつた併し其時には日本の不利でありました百濟は日本を大に賴みにして居ましたが終に任那は新羅が取りまして次いで百濟も併呑して仕舞ました其の後も

新羅は高句麗ミ 日本を利用して

居ました是れ等の時代は支那の南北朝の時でありまず次に新羅は隋の煬帝の時には又新羅、百濟、高句麗の三鼎立ミ爲つて居ました隋唐の時代には朝鮮半島は日本を賴みにして大に好意を表して居ました其時代は新羅は孤立になつて困つて居た當時周白信なるものが居て唐の都たる長安に往つて此の儘では新羅は亡びるから唐より助を乞ふた茲に唐ミ新羅の聯合が成立して高句麗征伐の軍を起した併し甘く行かなかつた故に唐は百濟を攻んごした日本も亦百濟に援兵を出したが日本軍は金江に上陸したが此時も日本は不利であつた其後唐は百濟を亡ぼしました新羅には何も與へなかつたが新羅は尚北方に高句麗があるから忍んで居た偶々高句麗は內亂が起つて唐は兩面より征め遂に高麗の全部を唐の領分ミして仕舞つた、漢民族が東方に及んだ第一の時である終には對馬海峽まで來たのであつた唐は最後には新羅をも亡ぼさんこしたが新羅は大に考へて注意に注意をして唐の衰へる時を俟たのであつた唐の則天武后より高宗の時に至つては唐は衰へて來た其頃になつて新羅は元の高麗の地を征め大同江の南は新羅の有こした茲に初めて朝鮮半島の統一が出來たのである、其頃は遼東の地を渤海、契丹、黑水、女眞ミ云ふ其他流々國（サカレンノアイヌ）等も唐に朝貢する樣になつた則天皇后の時には渤海ミ云ふ國を建設したが渤海國は後に唐に反して獨立しました

唐は其時新羅と 結んで南方より

征め唯今のハバロフスク黑水マツカより北の方面を征めました其時代は日本の聖武天皇の時で唐は大に日本に好意を表して居ました其時朝鮮の平安道は渤海國が取りまして其中間に無所屬的の土地が出來ました所にも渤海にも新羅にも屬せずニウトラルが出來て唐末に至つて南方民族は衰へ北方の民族が盛になりました唐が衰へるミ云ふ事は丁度十世紀十一世紀により亞細亞は全體に衰へて來た

本年の株界如何

日本興業銀行調査課　小野英二郎

◎本年の株界は一言を以て蔽せば、大戰財界整理時代の、特徴を現すものこ觀るべし。蓋し昨春の財界動揺は、各種の救濟方法が、漸次功を奏せる結果、人心頗る安定したるも、なほ戰時の好況に乘じ、濫興せられたる諸會社は、未だ整理全からず又物價の騰貴に際し、思惑買をなしたる滯荷は、未だ處分を遂ぐるを得ず。之等の滯荷或は有價證券を擔保としての貸出は、未だ回收完了せず。殆ご整理を要するものは、今後の懸案に殘したる儘、本年に持越されたれば、此の整理問題は、今年の大使命なり。

◎從つて本年は、整理及び整理後を豫想する結果として、人心一般に警戒し、生產は手控へられ、取引は減退し、貸出の警戒こ共に資金の需要縮少し、一方預金は增加して、銀行手許は潤澤を加へ、之が利殖の必要上、短期資金は供給超過し、コールの如きは低利こなるも、なほ長期の貸出は嚴重に警戒して、長期金利は昂騰し、既に昨年發生したる、短期ミ長期この利鞘は、愈々開きを大にすべし。即ち潤澤なる資金も、商業資金に向けられて、工業資金は窮迫し、利耗高利み支拂ひて、企業を試むる能はざれば、株式投資の氣勢は揚らず株界の不景氣は、なほ繼續するこ觀るべし

◎之を海外の狀勢に見るも、世界不安の傾向は、世界的現象にして米國の財界は、米國の銀行家が、自發的の警戒より、漸次實價化したる觀あり。パニックこそ出現せざるも、漸く惡化しつゝあり。歐洲の財界は、北に露國が安定せず、南に巴爾幹の爭亂起り、人心漸く不安にして之等の鎭定せざる限り復活の見込みなし。從つて各國共、取引は減退し、物價は漸く下落せりその內外物價の比較は、爲替關係等を見込めば、我國は最も高く、一段の下落を見ざれば、輸出の困難なる事情あり。內地の需要も先安を見込み、成る可く手控へつゝあるのみならず、農產物の下落に依る農民の購買力減退、財界の不況に基く、一般商工業者の沈衰、之れに伴ふ營業過剩の傾向等は、何れも今後の物資需要を減退する傾向ありて、物價は下落を免れざるべく滯荷は、益々處分に窮し生產は不振に陷り、自ら株式投資は、愈々手控へられざるべからず。

◎以上の關係を見る時は、今年の株式界は、尙は昨年下半期の沈衰の連續なり。然しながら大戰後の反動は、稍後れたる觀あるも、歐洲交戰國の如く、財力の蓄積せるに非ず。多額の資金を死藏し、夢みたる戰時の好況に依り、勃興したる諸企業も、多少は株式熱に投ずる、只投機にあらざるも、大體成算を有しプレシアムを目的とせる跡なきにあらざれば、財界安定する時は、相當成績を擧げ得べく、只投機思惑の、破綻を見たるに止まれば、底力は堅固にして或は會社の合併に依り、或は資本の合同に依り、充分整理の見込有し、決して悲觀を須ひざるべし。即ち整理を誤らざれば整理後の活躍は期待するを得べしと信ず。

陸軍大異動

陸軍大更迭は新年早々發表さるゝ事こなりたるが其の大頭株の更迭を漏れ聞くに浦潮軍司令官大井大將は愈軍事參議官に補せらるゝ事こなり後任には立花關東軍司令官轉補され關東軍司令官の後任には第一師團長河合中將が赴任し第一師團長には目下西伯利に出征中の第十三師團長西川虎次郎中將轉任する事こなり居れり而して右大更迭は來る六日發表さるべし（東京電報）

越年堅實

中村殖銀理事談

予の聞く所によれば歲晩の決濟は廿九日を以て大體終りを告げ三十日並に卅一日は先づ跡始末に過ぎたりこ稱して可なるべく、まわりは大體に於て良好の方なりき銀行の回收手加減緩大の關係もあれご手形流通も割合に圓滑にして僅少されし回收並に金利收入も成績あしからず越年こしては存外堅實ご見て差支なし內地方は未だ情報來らざるも大體平穩に經過せる如し

歲晩の鮮銀券

十二月三十一日現在の鮮銀券發行高は一億一千四百萬圓にして限外發行なし尙ほ之を前年歲晩に比し五千一百萬圓の減少を來し信用通貨たる手形の流通減に伴ひ財界の不況は現金通貨の大縮少こなれり

七八聯隊の 除隊式

名譽ある凱旋兵　內地に向ふ

龍山步兵第七十八聯隊にては四日午前八時營庭に於て勅諭奉讀式を行ひ終つて上坂少佐の聯隊長附こなり長渡少佐の第三大隊長に新補せられたるにつき命課布達式を擧行し更に又派遣隊に出動し去る二日歸隊したる第三大隊の兵卒除隊式を行ひ堀田聯隊長の訣別の訓示あるたるが午前九時半より除隊兵等は給與されたる除隊服ミ著替し欣然こして出發の準備をなし正午惜別の宴を張り盛に友情を談じ午後四時二百餘名の兵卒は堀田聯隊長以下將校下士卒の見送りを受け龍山驛に至り驛前廣場に於て更に惜別の辭ありて二年間住み馴れたる龍山を振返りつゝ午後五時三十分發內地に向へり然して該除隊兵は朝鮮第二十師團創設以來初度の名譽ある凱旋兵にして加ふるに不逞討伐の功勞あるものなるに出征凱旋除隊等に於て一名の京城市民が送迎せざるは甚だ遺憾なりこ某識者は語り居たり

負債支拂日近し

各國財政と新年來

デーリー、ヘラルド紙財政記者曰く過去數日間に財政狀態は稍緩和し新年來ミ共に聊か前途有望の曙光あり蓋し右好況の理由は米國に對する負債支拂の延期を期待するにあれご須く債支拂の必要は水平線上に旣に漸次現はれつゝあればなり米國大藏省年新に依れば支拂日請求の時期は近づきつゝあるもの、如し戰勝國間この貿易は非常に不調の狀態にあり取引不調の為歐洲諸國は共に同樣の狀態にあり最近四ヶ年以上に亘りて古今未曾有の富の破壞行はれたるも商工業者は急激に增加しつゝある一方聯盟費は三倍に膨脹せり各國の歲出は尨大なる增加を爲したり（倫敦一日發電）

齋藤總督招宴

齋藤總督は五日午後六時より總督官邸に李完用侯[illegible]以下內鮮官民朝鮮貴族七十餘名を招待して新年宴會を催すべし

臨時敎育調査會 內地委員

澤柳、鎌田、江原 平沼等の諸名士 六日入城せん

來る七日より開催の臨時敎育調査會は豫定通り七日午前十時より總督府會議室にて舉行さるに在內地各委員よりは夫れ〲出席の旨回答ありたる由なるが內閣より電報する處に依れば委員中の[illegible]次郎氏は法制關係にて出席不可能なるも澤柳、鎌田、江原、平沼、永井敎育界の各巨頭を初め姉崎東大教授、小西京大教授、三土大藏參事官、後藤拓殖局次長以下殆ご全部は六日入城、會議に出席すべしご

御用始

總督府御用始式は四日午前十一時より本府第二會議室にて擧行所屬官署長本府各部課長參集し水野政務總監一同を代表して挨拶を爲し齋藤總督より年頭の賀辭あり吉例通り御用始式滯りなく終了せり總督府各部局にて於ても夫れ〲御用始式を擧げたり

▲京城府廳　京城府廳では四日午前十時職員全部府尹室に集合御用始式を行ひたるが當日は府尹其他病氣中なるを以て北村二課長は代つて挨拶をなし新しき年こ共に將來の奮勵を促して後隨時退廳

▲京畿道廳　京畿道廳にては四日午前十時より階上會議室に職員一同參集し御用始式を擧行し工藤京畿道知事の服務心得の訓諭ありて十時三十分散會せり

京城現株發會

京城株式現物取引市場にては四日立會ひを開始釘本社長の挨拶川崎仲買副委員長の答辭あり相場は大體堅調に出來せり

金融成績良好

歲末に於ける諸物品の買上げは財界の不振に伴ふ穀價の急落並內地に於ける製造能力の減退に因り年

社 頭 曉

各地の元日

群山

朝來曇天氣溫五十四度午前九時より群山府廳並に各學校に於て拜賀式あり同十一時より群山公立小學校に於て官民合同祝賀會あり市中は年賀回禮者織るが如く殷賑を極めたり（群山）

開城

午前十時より小學校に於て拜賀式あり官民有志參列多數なりき尙名刺交換會は午前十一時より小學校內に於て開會出席者三百名松元面長開會の辭を述べ宴酣なる頃宇野判事の音頭にて陛下の萬歲を三唱和氣靄々裡に散會せり（開城）

新義州

元旦の新義州は朝來爽氣嚴しく風強かりしが二日も亦風あり寒氣前日に劣らず零下十八度を示し三日は風收まりて大に新年氣分現れ市中賑はひたり四日午前十時消防出初式を擧行せり（新義州特電）

四平街

元旦の四平街は晴天氣溫最低零下七度午前十時小學校に於る御眞影拜賀式の後直に官民合同の名刺交換會開かれ帝國の萬歲を唱へ夫れより三々伍々相携へて各戶を廻禮する年賀客頻繁にして屠蘇の香漂ひ平出度き新年なりき（四平街特電）

羅南

元旦の羅南地方は曇天なりしも例年になく暖かな

君が代の唱歌に次いで兩陛下の萬歲帝國の萬歲を三唱し散會せり（鎭南浦特電）

營口

午前九時より領事館に於て拜賀式十一時より小學校に於て新年式十二時より營口神社初詣り午後一時より公會堂に於て市民二百餘名の互禮會開催したるが當日は晴天にて氣溫は零下十度遼河の水未だ結ばず（營口特電）

清津

新年の淸津は近年稀なる暖かさで府民は午前十時府廳に於ける拜賀式に參列正午より小學校にて名刺交換年賀宴會あり參會者約五百名市中は市況閑散なる故緩落しの氣分淺しく市中何こなく活氣に充ち花柳界も大に賑つた港內には宮島、釜山、立神の諸船滿船飾を爲し除隊滿期兵は今年初めての試みなる竹島丸で一萬の苑をし土產を澤山持つて嬉々こして乘船した（淸津特電）

大連

元旦の滿洲各地は何れも白雪に蔽はれたるが大連地方は二日は晴天寒氣强く零下十五度旅順は零下十三度三を示せり（大連特電）

撫順

舊臘三十一日夜來の降雪積るこミ五寸餘こなり氣溫零下十五度强大なれごも比較的暖く各戶に飜る國旗は勇ましく帝國の稜威の隆盛を誇く神社に於ては午前九時より歲旦祭を行ひ十時より小學校に於て生徒及び一般の拜賀式あり十一時より參會場にて名刺交換會あり

吉林

元旦の吉林は曇天にて小雪ありたるが午前九時半より總領事館に於て遙拜式あり次いで小學校に於て祝賀式を擧行し引續き名刺交換會ありて非常の盛況を呈したり（吉林特電）

光州

朝來晴天なりしも夜に入りて雨こなれり氣溫華氏四十二度六拜賀式其他例年の如く小學校に於て名刺交換會ありたり（光州特電）

春川

午前十時半より江原道廳に於て官民聯合の御眞影拜賀式あり引續き大神宮に遙拜し終つて正午より春川公立普通學校にて春川面主催の名刺交換會あり來會者數百名帝國の萬歲を三唱し散會したり（春川特電）

奉天

奉天にては一日午前九時より總領事館にて拜賀式あり正午公會堂に於て名刺交換會擧行堀會頭の開會の挨拶內田中學校長の調整にて國歌二唱更に岸少將の發聲にて兩陛下の萬歲三唱にて式を終りたるが集まる者數百名極めて盛なりき尙ほ元旦の當地方は前夜來少量の降雪あり市內各戶門松を立て國旗を揭げたるが白雪ミ相映じ鮮麗の車馬往來繁く正月氣分に充ちたり當日氣溫最高零下十一度二最低零下二十一度七昨年に比し五度乃至七度九を低し二日は更に降て最高零下二十一度五最低零下二十五度一こなれり（奉天特電）

未來ある朝鮮の 遞信事業

竹內局長談

我が遞信事業は年々歲々多事なる極めて恰も今年は我國遞信事業創設五十週年に該當するので內地遞信省に於ては記念の爲此春四月大々的祝典を擧げ記念切手等も發行する筈である之に反し朝鮮の遞信事業は去る明治三十八年日韓通信協約に基き時の韓國政府より委託を受けて以來幾何にもなつてゐない然し總ての事業は五十年の歷史を持つ內地の遞信界同樣大いに實績を擧げてゆかねばならぬ。そこに吾人の將來もある譯である、希わくは大正十年よりは朝鮮に於ける遞信事業の欠陷を補足して完全に屋臺の立て直しを行ひ充分此の將來ある一年を迎へたいミ思つて居る云々

寸碧

近來內鮮人融和の爲め內地人の朝鮮語が問題になり其の必要を說く者が多くなつたのは誠に好き現象である▲それに就て紹介して置きたいのは遞信局の丸山、藤原、小林、田中ミ云ふやうな事務官連が舊臘以來遞信局の一室に朝鮮語研究會を設けて熱心に習得して居ることである▲何れも上達の早いこミ驚く程であるが就中某事務官の如きは發音正確、記憶力絕倫一年もすッかりやつたら通譯官連をして後へに瞠若たらしむるであらうと評判▲毎日午後の六時から午後八時頃で如何なる事があらうが遅れるだけは必ず遅るこミに定めてゐるが今でも寒暑の挨拶位には事缺かぬそうである▲同局の山口高等警察課長は朝鮮語の必要をシミ〲感じたさかで歸任匆々入會を申込んだが學力が違ふから勉強の妨げになるこ云つて一度は斷られたので拜むやうにして入會を許されたしく將來熱心家の一人だそうな▲其動機を聞くこ警務局の赤池局長が何時の頃からか秘かに朝鮮語を勉强して毎週三回午前中の七時から八時半まで自宅で研究して居つたこミが判つたので負けては堪まるものかこ直ちに發起に及んだこは面白い

山縣長官東上

山縣關東長官は政府委員こして第四十四議會に列席すべく四日午前十一時大連出帆の[illegible]丸に便乘東上の途に就くこミゝなりたり（東京特電）

公會私會

▲消防組新年宴會　龍山消防組にては五日午後五時より料亭新玉に於て新年宴會を開催せり

人事消息

▲青木戒三氏（庶務部長）　病後の經過良好にして七日京城發別府溫泉に赴き約一ヶ月の豫定を以て靜養すべしと

▲河內山財務局長　東上中の處五日夜歸城の筈

▲李勇吉殿下　三日釜山發七時五十分着の[illegible]丸にて內地へ

▲高橋章之助氏　同上

▲馬場次男氏（專賣煙草事務）　東上中の處十日頃歸城の筈

▲[illegible]三郎氏（鮮銀調理課長）　大連支店新築披露のため三日夜同地へ十三日頃歸城す

南浦漁業狀況

鎭南浦水產會社昨年中の水揚高（鮮魚通魚）は十九萬一千餘圓にて同地近海の漁獲高は十五萬二千百二十八圓なり而して此外水產會社の手を經ず販賣されたる漁獲高は四萬三千八百圓即ち計十九萬五千九百二十八圓にして此內鹽魚（主として鮟鱇）鮮魚、釣魚延繩漁業漁獲物四萬四千二百圓（內鎭南浦漁業者漁獲物三萬二千二百圓）なり南浦の主要漁業たる鮟鱇網漁業は昨年は一般に不漁にして加ふるに夏季虎疫流行のため內地通漁船の入港少く其漁獲物の取引に減少したり唯鱇延繩其他釣漁業は虎疫襲來の為大なる影響を受けたれごも他漁業に比し相當なる成績を擧げたり（鎭南浦）

解放 新年號

明治維新の新研究
明治維新成敗の跡…三浦博士
世界の商業から見た維新…白柳秀湖
攘夷派成功の維新…大庭柯公
德川政府の經濟的自滅…瀧本博士
維新前の民衆運動…尾池義雄
ブルヂョアの維新…堺利彥
明治維新の遠因…三宅博士

鬪爭の心理（興味深き心理的文學的研究の發表）…大西猪之介
女性の反逆（新女性の問題を論ずる雄篇）…山川菊榮
改造の意義…佐野學
英國勞働運動史…荒畑寒村
心理疑獄…[illegible]
解剖の陷穽…[illegible]
國家と社會主義…小泉信三

古事記 神話の地理的研究…石川三四郎
在米「チャップ」…近藤榮藏
上方の人々…竹久夢二
京阪文化の相
京都の特性…[illegible]
回想の大阪…[illegible]
浪速津の…[illegible]
風俗上の京都…[illegible]
伯林通信 蝙蝠日記…黒田禮二

創作九篇
友の話…武者小路實篤
狼の群…室生犀星
辻の君…水上瀧太郎
村長…葛西善藏
裸談義…永井荷風
途上で…廣津和郎
お澤…宮地嘉六
妹の戀…細田民樹
葡萄酒…上司小劍

東京京橋 大鐙閣

商工業者の羅針盤　大阪仕入案內　仕入商人の好伴侶　第十四年一月號出づ　定價一部…　大阪仕入案內社

水龍天に躍る
寒風肌を刺す四日朝 本社前廣場に於ける
消防出初式

新春の三日は穩かに過ぎたが四日は前日に勝つて寒風肌を刺す計りの中に吉例に依り京城消防隊組の出初式を

本社前廣場 で擧行した午前八時小熊消防主任引率應援に集合し常備消防隊は德壽宮城壁に添ひ龍山京城廳浦消防組は本社に向つて右に展開して居た、天幕内には工藤知事千葉三部長齋藤府尹大橋大佐市内各署長其他官民の多數は裸の炭火を圍んで待ち受ける聽て午前九時を報ずるや氣を付けの

喇叭は響き 渡つた工藤知事は小熊警部同乘自動車に千葉三部長眞様宮署長は乘馬各署長は徒歩で第一中隊から順次檢閲し終つて復席するや小熊警部の號令一下京城龍山消防隊組の梯子乘りに移り各組共放れ技を演じて觀衆をハラ／＼させた次ぎに演習開始の喇叭と共に機械梯子蒸汽ポンプの威力腕用ポンプ組の活動

竿頭に吊し た鬼灯提灯を射落すのは白龍の玉を爭ふ譬であつた其時中央の塔から白煙濛々と立昇る見るや蒸汽ポンプは塔に向つて放れし初めたので中空には虹を描きて美觀を呈した。塔上部の圓塔が大半燒失せんとする頃上部は自から燒け落ち白煙の中から忽然と怪物が現れた同時に

演習中止に よつて白煙の消ゆ行くと共に先きの怪物は鷄に因んで鷄の造物で此時十重二十重に圍んで居た群集からは一齊に拍手が起つた一同復席と同時に集まれの號令で鷄林安寧の大旗を頭へて居た天幕の前面に整列すれば工藤知事から十年勤續者及其他に授賞し更に訓示する次に千葉三部長の訓示齋藤府尹の授賞赤池局長昌德宮からの

酒肴料目錄 授與隊組長列に復したる時指揮官の令に依り一同敬禮して式を終へた時に午前十時それから喇叭の合圖に依り隊伍を整へ總督邸知事三部長邸に廻禮して解散した

總督、總監 李王家訪問

四日、總督府御用始式を終へた齋藤總督はフロツクコートに絹帽、姿に新春の喜びを頬に浮べて守屋秘書官、滕波通譯官を從へて午前十一時三十分自動車上の人となり水野政務總監も同樣自動車で總督に尾し總督府を出た。此一行は雪深き昌德宮に參ぐら新春の御喜びを傳へて李王家を訪問したのである。李王殿下は御喪中の事こて麻の龍袍に喪服姿にて總督、政務總監と宮内の樂善齋別室にて御對面年賀の挨拶を交された模樣であつた。斯て總督政務總監一行は自動車を連ねて李堈公殿下を御訪問、年賀の挨拶を交されたと

中溝男令息 列車から落ちて 慘死

東京府下荏原郡大崎貴族院議員海軍中將男爵中溝德太郎氏の令息東京硫酸株式會社々員中溝繁氏(三)は二日夕荏谷驛にて進行中の列車より轉落し慘死せり(東京電報)

侍天教本部では 教主制廢止
他の各派でも論議の種とならう

既に屢次報道せる所であるが右に關し從來宋秉畯伯が統率して來た侍天教本部では今回組織を改め教主制を廢すると共に大に教勢擴張を成すとに成り今回之を發表した。此の教主制廢止の聲明は

東學各派に 取つて可成りの大問題で他の各派に於いても論議の種と成るともあらうと思はれる。本來天道教、侍天教總部や且又同本部では總て水雲大神師を第一世と稱し海月神師を第二世と稱し各派棟梁孫秉熙、金演局、宋秉畯等は何れも第三世として教主なる尊稱を用ゐて來たのであるが

始祖第一世 の教義を謙遜する門下後弟の身で自ら第二世と呼び第三世と稱するは甚だ僭越の沙汰で本來有るべからざる事である。佛教でも耶蘇教でも後世一門下が自ら教主を目して任ずる如き悖德行爲の前例は絶無であるに比し東學各派のみが之を僭稱するは不可解なことであつたのであるが今回

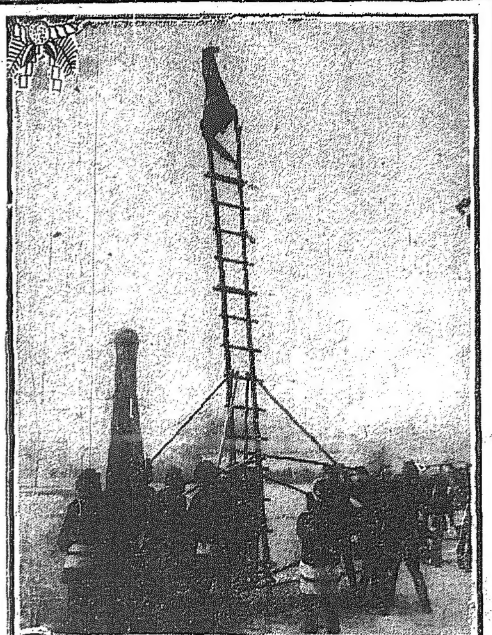
宋秉畯伯 は此邊に氣付き斷然教主を廢し又侍天教本部では爾後絶對に教主制を廢し教徒統一の爲め單に教長なるものを存置して教務を執行して行くさうである。現在天道教を始め各分派では水雲大神師が得道せる四月五日の記念日を始め其の誕生日、受刑日、第二世海月神師が傳統せる記念日及び其の誕生日並に受刑日、第三世即ち孫秉熙、金演局氏等が傳統せる記念日並に其の誕生日其他種々雜多な記念日があつて教徒は常に一定の誠米を納めつゝある外記念日毎に

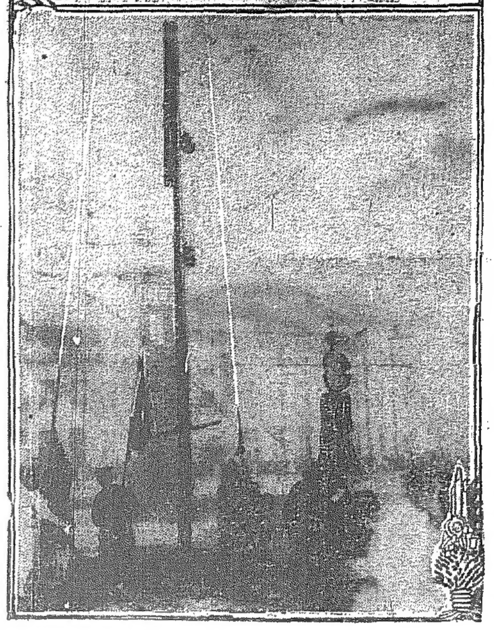
特別の寄附 を命られ區長又は大區長の如きは其の度毎に數十圓又は數百圓を投じて來るのであつて、東學分派の教徒が實際に負擔しつゝある金額は非常に多額に上るのであるが從來の如く各教で教主制を存置し第三世以下後世に第四第五の教主を設けて行くとすれば

數十百年後 は教徒は毎日お祭りの日を送り百姓は幾ら稼いでもお祭費と誠米の負擔で貧乏して行かねばならぬ事に成るのである。故に今回宋秉畯伯の教主辭退と同教本部の教主制廢止は東學から見れば頗る大問題であつて他派でも之を模範として早晩教主制廢止の已むなきに至るであらう

九州一周 耐寒飛行 十三日より

大刀洗航空第四大隊は嚴寒の際に於ける高層飛行の搭乘者及飛行機に及ぼす影響研究のため九州一周大飛行の壯擧を企て來る十三日より實施する筈なり(福岡電報)





消防出初式 (上)梯子乘 (下)祝水

鮮人工夫等 數百名の爭鬪
南洞面鹽田工事場にて 輕傷者十三名を出だす

一月一日午前富川郡南洞面に於ける總督府專賣課鹽田工事場に於て鮮人工夫百餘名爭鬪を起し

鮮人十三名 の輕傷者を出だしたる椿事あり同所は南組の請負に係り内鮮人約六百名あり一月二日正午頃富川郡文鶴里駐在所へ訴へ出でたる者の言に依れば同所に於て數百名の入夫中内地人三名鮮人一名

殺害せられ たりとの事に同駐在所より直に本署に報告あり仁川署は俄に活動を開始し牧田警部以下武裝せる警官五名自動車にて現場に急行したるが事實は殺害に非ずして鮮人工夫十三名の

輕傷者を出 だし居りしを以て同行の久米田警察醫の手當を受け重傷と認むる者も非ざりしと原因は元旦業を休みて何れも飲酒し或は賭博等を爲したる結果口論を初め遂に

百餘の人夫 總立ちとなりて此の騷動を惹起せるに非ずやと云ふ其後平穩にして何等不安の兆なしと(仁川)

撫順に牛疫 撲殺十一頭

滿蒙牧場撫順支場に於て昨臘三十一日牛疫發生し直ちに血清療法豫防注射を施したるも遂に飼育牛十七頭中十一頭は三日撲殺せり同所は一昨大正八年一月にも牛疫發生全滅せることありたるが今回發生の原因其の他調査中損害一萬餘圓なるべし(撫順特電)

面長を傷く

舊臘三十一日伊川郡龍游面元面長金教明方に拳銃を所持したる一名の不逞漢侵入脅迫したるも其の意に應ぜざるや憤慨し拳銃を發射し同人の腕に貫通銃創を負はせて逃亡したるが急報に依り伊川警察署に於ては署員一同出動し犯人搜索中なり尙ほ同時に道第三部に於ても搜索隊を同地に出動せしめたり(春川特電)

愛らしい春の音信
本社斡旋の下に開かれた 内鮮兒童親交の路

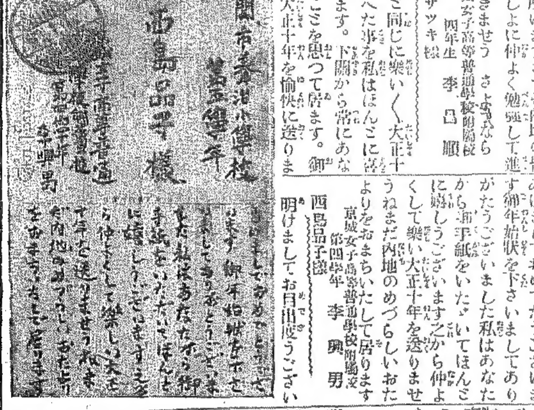
我社は前號所載の如く内鮮融和の根本義に深く／＼喰入りたい希ひから今まで殆ど忘られてゐたかの如き内鮮兒童同志の美しい交りを結ばしむる爲め先づ第一に下關支局と聯絡を執り同地の遂治尋常小學校兒童と京城府内於義洞、水下洞其他各普通學校兒童との間に立つて斡旋に努めた結果清い心から認めて交換せられた愛らしい手紙の數は相併せて一千通の多數に上つてゐる。斯して尙今後東京大阪其他より内地各地と朝鮮各地の學校兒童との親交の路が開き第二回第三回と日からは各自思ひ／＼に一層親密な交際を重ぬるに至る事は左に掲ぐる手紙の文面に見るも明かであらう。諸人よ、賴もしい彼等の心を。

謹んで新年を御祝ひ申ます。あなたと私は明治四十三年に親しく姉妹となりました。そのあなたの土地は白兎のやうな美しい土地であります。讀み方で習つたあの白い著物を著て學校に通ふあなたがたの姿が見たうございます。さやうなら

下關市立遂治尋常小學校第六學年生 奧島サツキ
李昌順樣

明けましておめでたう御座います御やさしい御はがきを下さいましてほんとにうれしうございました内地のことを見聞する度におあひしたいと思つてゐます。私の居る所はさうくはなれて居りますがほんとうの姉妹ですね、あなたのいはれる通り冬は寒う御座いますもう雪が降つて大へん美しう御座いますどうぞ内地の皆様こ一しよに仲よく勉强して進んでゆきませう さようなら

京城女子高等普通學校附屬普通學校四年生 李昌順
奧島サツキ樣



皆さんと同じに樂しく大正十年を迎へた事を私はほんとに喜んで居ます。下關から常にあなた方のことを思つて居ます。御互ひに大正十年を愉快に送りませう。

下關市立遂治小學校第五學年女 西島品子
李興男樣

明けましておめでたうございます御年始狀を下さいましてありがたうございました私はあなたからお手紙をいたゞいてほんとに嬉しうございます之から仲よくして樂しい大正十年を送りませうねまだ内地のめづらしいおたよりをおまちいたして居ります

京城女子高等普通學校附屬普通學校第四學年 李興男
西島品子樣

明けましてお目出度うございます。あなたに手紙を差上げるのはこれが初めてであります。朝鮮の冬は大變寒いからオンドルを用ふると國語でならひましたが此頃は盛にオンドルをお用ひでせう。私共もあなた方もりつぱな日本女子ですから此れより手を相握り女子の本分を盡しませう。かしこ

下關市立遂治尋常小學校第六學年女 竹中愛子
李玉男樣

明けましてお目出度うございます私の學校は京城にある於義洞公立普通學校の女子第四學年であります。もう大正九年がゆめのやうにすんで大正十年となりましたあなたから手紙をいたゞいたことは初めてでありましたこゝは大變寒いですがそちらもやつぱり寒いでせうこんな寒い時にはあなたも私も一そうべんきようしてともに大日本帝國の女子の本分を盡しませうさよなら

朝鮮京城於義洞公立普通學校四學年女 李玉男
竹中愛子樣

初會 仁川取引所

一月四日午前十一時仁川期米の新甫發會をしたが騰落常なき期米は舊臘二十一圓二十七錢と納會し初立會ひは二十三圓十錢と舊臘に比し二十錢の高値に生れたより定刻に先ち若松社長加來河野各取締役白神庶務各役員以下所員一同高く新甫發會を壽ぎ社長は前に現れ各仲買店主及び代理人亦悉く市場に集まりて祝盃を擧げ新甫發會を壽ぐ聽て社長は今年成績優良の三仲買店淺野、今村、廣澤の三氏に對して名譽の賞狀銀盃を交附し年頭の挨拶を述ぶるや滿場割るゝ許りの喝采裡に開始すれば買人氣頗る旺盛に斯て十一時十分擊柝一聲立會を開始すれば限廿二圓十五錢中限二十二圓丁度と生れ新甫三圓限は二十二圓十錢の高値に生れ新春劈頭の强調に人氣沸騰したされで各節は追に波瀾なく午後零時三十分無事出度く發會を終へて拍手の裡に散會した(仁川電報)

死者十一名 正月三ケ日に

他人は御目出度さうに酒を汲み交はして飲めや唄への一月元日から三日迄の間誰も幸福らしい氣分の頂上に踊つてゐる時其反對に不吉な灰色の空氣を吸つて悲しみの絕頂に慟哭した人が京城にも尠くない茲に京城府廳へ屆け出られた死亡屆を見ると一月一日鮮人三名内地人一名二日鮮人六名一月三日内地人一名鮮人一名等で其病名別を見ると貧血衆心臟痲痺神經衰弱流行性感冒の腦膜炎肺炎肺結核腸チビス肺癆と云つた風なもので頭を緣起でもない病名はかりであるが人間は相集まつて一人殘らず幸福であられる場合絕對にあり得ないものらしい因に出生屆は三日迄に屆出でたものはなかつた

京取の初會 相場は穩か

京城株式現物取引市場の初會は四日午前十一時から初めた定刻に先立ち釘本社長の挨拶あり社長は蜂尾並兩取締役を紹介し續いて蜂尾氏と一言就任の趣きを述べ川崎仲買副委員長の答辭あり賑やかな手打式を終ると小宴すぐ京取株の立會に移る筈で十五日を一區こしたのみ新春からは今週中と來週中の二本に分けたので立會も複雜を加へ時間も要る尤もそれだけ株式賣買の思惑はヤリよくなつてゐる相場は京取二十二圓六十錢から三十二圓仁取百四十五圓から五圓七十錢鮮銀、殖銀など堅實株は何れも小强く相場は穩健との評だつた尙ほ初會の當日とて參觀席には株式賣買に趣味をもつた連中が一ぱい詰まつてゐた

儀式張らずに凝つた意匠の年賀狀
今年は總じて振つたのが尠い

松の内三日内に屆けられる年賀狀は從來相互間の疎遠を謝し新年の御慶目出度申納めて御將來にかける交誼を祈ると云ふ一種の儀式張つたものであつたが

最近に到 つて年賀狀は斯うした意味を離れて相互に奇拔な意匠を凝らす傾向をとつて何處へ行つても賀狀の奇を逸る人が尠くない今、茲に二三の奇拔なものを見ると元山の

石原府尹 が『府勢の一斑』と見出して人口、氣候、貿易其他を六ぺ夕で印刷してゐる、某普通學校教員は鮮人兒童に彼自身の氏名何年級等を署名させて代筆させたものもある、其他去年十月

戸口調査 を施行された當時の申告書を其儘印刷したもの、長々と一年に亘る過去將來をこまく書き連ねたのや共産社會主義の研究を宣言したのもある滑稽なのになると洒に依つて川柳、俳句、和歌(鳥にちなんだもの)等を

駄句つて ゐるのもあれば『生きてゐるしるしに安い年賀狀』と頗る納まり返つてゐるのもあつたやうだが今年は總じて振つた意匠もないやうだ

老婆電車で重傷

二日午後六時五十分頃東大門行電車第八〇號が龍山漢江通り八番地先を疾走中前方より一人の内地人老婆がノコ／＼と線路内を歩行し來り遂に電車と衝突し左右の兩足を切斷され無殘の重傷を負ひ鐵道病院に擔ぎ込み目下加療中なるが被害者は漢口通り十三番地久保田三吉妾母小系當(六七)にて生命危篤なりと

魚商紛擾解決

龍山水産會社の仲買人組合と公設市場の藤川商店が些細の行き違ひから睨合うて居つたが川田氏の仲裁で年の新まると同時に圓滿に解決を告げた

府内の初火事

二日午後五時市内大和町三の八二京城俱樂部大和町支部から發火したが大事に至らず消し止む原因は暖爐の過熱から損害約百圓▲同日午後十一時頃鐘路五の二四城鋼鹽燒方から發火即時消し止む原因の詮損から損害五圓位の見込

◎講習院擴張 宋延植、姜信文氏等が經營しつゝある京城齋洞私立講習院にては從來朝鮮人のみを教授し居りたりしも今回時勢の趨勢に鑑み時に午後部を開放し内地人生徒を收容し國語に熟達せる朝鮮人生徒を養成すべく正月十日より新學期を開始すべく多數入學する由なるが朝鮮語を以て教授する事となり開ける新しき試みなりといふべし

◎丁子屋の汁粉デー 本日午後二時より南大門通丁子屋に於て救世軍の育兒ホーム兒童の爲お汁粉デーを催して救世軍小投石島さんが出席して一同神の御惠みを感謝した

訂正

三日附本紙寫眞說明中本社を訪れた初荷は上圖は南大門通り三丁目雜貨染料商玉植京城支店下圖は太平通り二丁目穀類貿易商常磐商會に付訂正す

演藝

▲浪花座 二の替り▲前狂言「鎌播州皿屋敷」大序より仇討迄▲中狂言「義士外傳土屋主税」▲切狂言「曾我之對面」▲主なる役割 大高源吾(中村時松)、家老三太夫、寶井其角、曾我十郎(風信蔵)、土屋主税、曾我五郎(中村駒京)おたき、おその、大磯とら(松本錦枝)、寺山鐵三郎、我月、朝日奈(阪東調之助)、長五郎、工藤祐經(中村玉六)▲壽館 三の替り▲一番目喜劇『粹な丑の結晶』二場▲二番目社會劇『玉の輿』三場▲四番目『影法師』二場主なる役割 會社員日比、山田屋久兵衛、立花多平、番頭新七(金榮)紳士自用、上村光雄、片桐正一(カオル)百合子、花奴お花、須崎子(松子)亭夫留公、百姓喜助、金貸石川源助(二郎)

謹賀新年
安東縣
滿鐵商事部
販賣課出張所

木材貿易
三井保險取次
安東縣 此田榮太郎
電話長四三二番

全羅北道評議員 全州大正町
全州面協議會員
辯護士 山田彥光
電話五十番

今曉弊工場一部罹災の際は早速御驅付け御盡力被下難有奉鳴謝候混雜の折柄尊名伺漏れも可有之乍畧儀以紙上御厚禮申上候也
一月三日
仁川萬石町
齋藤精米所

農業世界
新年號
大正十年の劈頭に際し土地利用の矛盾を戰く 東大農科教授農學博士 川瀨善太郎
農村の在鄉軍人諸氏に 陸軍歩兵中佐 山梨半造
農村社會問題としての大地主と小作人 農學博士 永井柳太郎
我國の養鷄事業 月田藤三郎
回 特別附錄 冬期の副業 『養兎』外九種
驚歎すべき米國の大灌漑 阪本五城
農界偉人 佐藤信淵翁と其シベリヤ經營策 菅菊太郎
全國日本公園行脚記 野間守人
講談 田沼の智惠袋 神田松鯉
◦鶴の話 黑川善太郎
◦日本の矮鷄 中村
◦朝鮮の白菜漬 正木
◦農業上鳥類の利用 農學博士 小熊桿
◦朝鮮の小作習慣
◦カメロン氏の土壤 川瀬農學博士
溶液論
三河篤農 古橋 子爻 高橋淡水
◦關貫米 小松修附
本號定價 四拾錢 郵稅二錢
東京本郷 博文館

編修官 文學士 小倉進平著
國語及朝鮮語のため
菊判總クロース金文字入 用紙上質 頗美本
定價 三圓五十錢 送料十八錢
○言語の系統的分類○國語及び朝鮮語の系統○我が帝國内の言語 ○國語朝鮮語の比較研究○音韻の形態的分類 ○音韻の比較研究 ○國語及び朝鮮語の字音 ○外國語の○字音 ○朝鮮語の日本語 ○日本語と朝鮮語 ○朝鮮語の方言 ○國語と朝鮮語の關係 ○假名の起源 ○漢字略體の吐 ○文字と語 ○國語問題

朝鮮語學界の權威小倉先生の新著

總督府鐵道部長 天民和田一郎著 挿畫久保田天南畫
朝鮮の匂ひ
朝鮮に造詣深き著者が職務以外に朝鮮の事情を汎く深く研究せる感想に基き朝鮮の色彩を微妙に描寫せる一助ともなるべし
痛切な觀察と濃艶蜜の様なローマンス洗練されたる紀行文と悲愴な歌詩瀟洒な俳味と嬌趣な情歌、慣習や迷信と經妙な風刺、歷史と制度美術と宗教、稜々たる俠骨と熱血の記述、等流暢な文章で綴られてゐる加ふるに天南畫伯の流麗なる挿畫が各所に點綴し光彩を添ふ
總クロース金文字頗美本 挿畫四十餘コロタイプ四葉入 用紙上質三六版四百餘頁
定價 二圓五十錢 送料八錢

朝鮮 中學校 商業學校 高等女學校 高等普通學校
入學試驗問題集
大正九年度門題入 送料八錢 九十錢
發兌 京城本町二丁目 電話二五七 振替京城二一三 ウツボヤ書籍店 (鮮内各地書店ニ有)
賣捌 大阪屋號 振替京城二五七三 巖松堂書店 振替京城一四五四

法學博士江木翼氏試筆

大正九年の財界を顧みて 大正十年の財界を豫想す

京城商業會議所副會頭　釘本藤次郎氏談

大正九年の財界波瀾の跡を顧みるに九年一二月頃財界旺盛時代に於いて財界好況が永續しないと云ふことは何人も豫想した八年一二月頃の物價と九年一二月頃とを比較すると約倍額になつて居た點から見ても此の觀察は正鵠を得て居た然し不況來は何月頃來るかと云ふ觀測に於て何れも落第した即ち一般は五六月頃に不景氣が來るとみたるに三月頃既に財界の大勢大轉換期に入つたのは吾れ人共に意外とした所である株式と云はず綿絲布と云はず商業と云はず財界全般に大打擊を受けた殊に八九月の頃は大不景氣を示し十一月にやや回復の兆があつたが十二月に入つて第二の不景氣來襲の感があつた之の原因は米價暴落に因る一般購買力の減退にある夫で九年末の狀態では財界は荷重態たるを免れないので之れを整理する事は個人でも會社でも不可能の事であつた要するに動かすとも出來ぬ重態患者のまゝ越年したがさて十年初頭の容態如何と云ふこ舊正前後迄は非常に危險狀態にあるものと見ねばならぬ然し滋養を重ねて行けば生命には別條はないと云ふ有樣であらう上述の狀況である故回復期は案外永引くと見ねばならぬ依つて之れが對策として會社商店共に專ら經費を節減して持久策を採るの外はない顧つて物價に就て云へば先づ株式に對しては銀行に於ても幾分かの遊金を生じ手許も潤澤になるから自然株式放資も試みられるであらうし又日本銀行の金利も引下られる模樣であるから三月頃になれば多少見直すであらう次ぎに生絲は亞米利加大統領選擧を一轉期として輸出されると思つたが一向輸出されなかつた然し大統領就任期は三月一日である故其の頃から多少好勢的變化を呈するのではないかと思ふ更に綿絲綿布は支那の銀暴落の爲めに頗く困難なる狀態を脫するは至難であらう一般の物價は勞働者の賃銀によりて定まり勞働者の賃金は米價によりて決定されるが從來の慣例である故本年二月頃からは勞働者も財界の狀勢に鑑みて稍安價な勞銀にて働くことならうかくて前半期は一般商人の手許には其仕入品は高價品あり安價品ありと云ふ狀態で自然物價も動搖を免れまいや、物價の安定を得るのは後半期に入つてからであらうと豫想される最後に一言を要するは朝鮮人思想の問題である之は朝鮮財界の問題と關聯して見逃し難いことである之れを概觀して八年三月頃から九年九月頃迄は鮮人思想界は惡化しつゝあつたが十月に入りて全鮮實業家大會を開會し鮮內各地の狀態の報告を受けて將來の對策を講じ又決議に就て總督府に陳情した結果は鮮人に對しては內地人の誠意ある所を諒解せしめ當局に於ても多少參考とされたる點もあるやにて內鮮融和の上に幾分貢獻したこ信ずる、爾來警備機關は充實され警官の素質も改善され思想界の險惡も漸次緩和されかくて鮮人が總督の所謂文化政治の徹底する時期を招來するものと信じて疑はない者である

社頭曉

中村兵衛

上の卷

春未だ淺い秋葉街道には、殘んの雪が見渡す野邊に眞白く見ゑた。

降りみ降らずみの、黃昏を凍てた路に、カサ〳〵と氷る草鞋を踏み締つゝ、杖も突かぬ一老僧がやつて來た。

村社八幡神社に、一寸默禱を捧げて、更に玉垣に沿ふて歩みを續ける。

『モシお上人樣、御報謝を致しまする』と式內の石垣に附いた家の出格子。障子を開けた少女がある。

出格子とは名のみの、半分壞れ懸つた破れ障子に片手を懸け右手に白紙のお捻りを出した。

老僧は佇んで、鐵鉢に志しを受け、姿勢を正して唱へた。

『願はくば此功德を以て、平等一切に施さば安樂國に往生せん……南無阿彌……』

幾十年の朝夕を、看經に鍛へた咽喉の、朗かに稱名し終つた時。

少女は目禮して、障子を閉切つた。

『ア、これ其處な娘子、一寸……』

再び窓は開かれ、服裝こそ窶れたれ、引詰の束髪で、瓜實顏の純な少女の顏は現れた。老僧は近く窓の下に寄つた。

『娘子、失禮ぢやが其許は、毎日々々必ず愚僧に報謝されるが年端も行かぬに、御殊勝なお人と、窃に感服致して居つた。然るに今其許のお顏を見ると、常にない打沈んだ體、加之も兩眼に一杯、淚の露が宿つて居る。コリヤ何か仔細のある事と思ふ何とお差支なくば、其仔細語つて聞かせては下さるまいか。』

物優しく問はれて、少女は耐ら切れず、兩の袂を顏に押し當て、忍び泣きの態であつたが、漸く面を上げて、決心の眉を動かした。

『能くお尋ね下さいました。私共の家の恥ゆゑ、申すまいかとは存じましたが、御出家樣へお話しましたら、却て罪滅ぼしかとも存じます……何も彼も申上げませう。私が今日まで愚僧のお托鉢を待つて、少錢を差上げて居りましたのは、亡き母への追善と思つてゞございます。

十三四歲の少女とは思へぬ言葉で答へた。そして又語を續けて。

『其毎日の御報謝を樂みにして居りましたに、モウ今日限り、此御報謝が出來ないかと存じましたら、つい悲しくなりまして失禮を致しました。』

『ナニ今日限り……報謝が出來ぬ……そりや又何ういふ仔細、もそつと詳しく話して下さるまいか。』

『それが家の恥と存じます事で……もう聞いて下さいますな。』

『コレ〳〵何も彼も言ふと申されたに、今更包み隱す事はなからう。俺は出家の身ゆゑ、秘密は神懸けて他へ洩らすまい。又膝とも談合といふ譬へもあれば話して見なされ。事に依つてはお力にも成らうぢやないか。』

『御心切なお言葉、そんなら申上げます。私は明朝早く、濱松の町へ賣られて參るのでございます。』

再び袂に顏を掩ふのを、老僧は賺すやうに……

『待たつしやれや、合點が行かぬが、身賣りする事は。親御も得心の上でか。』

少女は愧づるが如く、羞かむが如く、少時躊躇つたが、漸く口を開いた。

『私は五年前に母が亡くなりまして、父の男手一つに育て上げられましたもの。八つの歲から此離の一里半隔てた分教場へ、毎日通學して居りますが、來年三月には尋常六年を終りましたで、附設の女學校へ入るのを、何より樂みとして居りました。濱松のお茶屋へ賣られましては、僅六年の小學校をさへ、卒業する事が出來ませず、唯それのみが殘念でございます。』

『して身賣りの金高、そりや何程か御存知かの。』

『十圓と聞きました。』

『ナニたつた十圓……宜しい、判りました。貴女の阿父さんにお目に懸りませう。心配さつしやるな……で阿父樣はお留守かの。』

『もう歸りませう。兎も角に出ましたので……』

『ハヽア殺生を世渡りの、獵人と見へるの。』

『此方へお入り下さいまし。穢苦しうございますが、椽へ何うか……』

油障子の表へ廻つて、圍爐裏へ案內した。

中之卷

『ア、寒い〳〵……お絲ッ。』

『オ、阿父さん、お歸りですか。でも降らなくつて可うござんしたね。』

舊式の鐵銃を捻り出して、藁靴を脫ぐ上り框から、椽の方をヂロ〳〵見た。それは見馴れぬ老僧が、爐端に納まりげに坐つてるからで……。

お絲は銃を欄の腕木に懸け、板のやうな坐布團を出しながら

『阿父さん、例も御修行にお越しの、お上人樣が被居いますよ。』

『オヽさうかい。お坊樣寒うござりますの。俺等朝から晩まで鐵砲擔いで飛廻つても、猫の子一疋出會す。追分で二合半酒飮んだのが自腹。飢じさに走つて戾りましたが、お坊樣も冷たい思ひして、貰ひはタントありますかい。』

お絲は土間へ、盃に取つた洗足の湯を持つて行つた。

老僧は平和な圓滿な顏に、輕い笑を湛へた。

『御主人、お留守中に邪魔します。寒い中を年寄りが、託鉢に來るのを、慾張りのやうに思はつしやらうが、之も出家の勤めで仕方がない……時に少し御相談があつて、お待ち申したぢや。』

『さうかな。マア待つて下さいよ。腹が減つたで……お絲よ、茶の支度ぢや。アッ燗も漬けたのか。それや氣が利いてゐたの……目刺しで可いや、酒は……。

椽に大胡坐かいて、盃を手にした。

『お坊樣、一杯何うぢや。

『折角ぢや、馳走になりましよ

老僧と獵夫とは、濁酒の獻酬が頻りであつた。老僧は盃を置いた。

『お前の娘子、お絲さんぢやらは、明日十圓の金に代へて、濱松へ行くといふは、そりや眞個の事かね。』

父はお絲を睨めづけた。

『コラ其麼事饒舌つたのか。內證をべら〳〵と……』

お絲は小さくなつて縮んだ。

『叱んなさるな。可愛さうに……コレ何で十圓の金が要るのかお絲さんが亡き母の爲に、日々の報謝したのが、賣られて行けば夭が出來ぬと淚を流してぢやつた。俺は其金の用途が聞きたい。』

父は吻と溜息吐いて、娘の顏を凝視めながら、又老僧の顏も見ながら、ちごりの酒を五勺入茶碗に注ぎ、一息にグッと呷つて、鬚を一摘り摘りながら、態とらしい笑ひした。

『お坊樣、俺だつて可愛い娘を金にしたかアねへ。况して嬶アが死んでから、男手一つで育てた大事な娘だ。手許は放したかアねへのだが……お坊樣、義理程辛いものはねへなア。』

『義理……ハテなア。』

『お坊樣だつて、浮世を捨てゝも、坊主仲間の義理はあらう。人間てへものは義理を忠はなきやア、犬猫同然だと言ふからなア。俺ア山育ちで、いろはのいの字を右から書くか、左から書くか知らねへが、それだけは死んだ親父や、母親から聞いてゐる。』

『成程……夫れはさうぢやらう

『斯うなつたら、洗ひ浚ひ話して了ひやせう。聞いて下さへやしよ。何を隱さう俺ア一昨年の秋、大病に掛つた事がある。神經痛とか言ふので、生れて初めて町からお醫者樣呼んで、藥も貰つて注射さやらもした。けども大層な金が要る。第一此山の谷へ、お醫者樣を連れて來るのに、俥賃と……使ひ賃……其上高い診察料に、藥代と……。お絲も困つたらうが、俺ア寢てゐても、ヂッとしてゐられねへ程。入費の嵩るのにやア、ホト〳〵弱つて了つたヾア。

話の中に、何時かお絲は爐端へ來て、鼻打かんでゐるのであつた。

老僧は何にも言はず、頷くのみで榾の火に、瞳した事さへ動かなかつた。

父は家の東の隅を仰いで

『お坊樣、持つべき者は友達だ俺が一錢の貯へもねへ中、困るのを知つて、あの東坂に住む、ドンドロ坂の茂十といふ獵人仲間が來て、ヤレ氣の毒な、藥も飮めよ、醫者も呼ぶが可い、騙の爲になら金を惜しむなよ。乃公の阿親が死んだ時の、用意の內い金が十兩ある。此金を費つて貰け……と言つて吳れたは、地獄で佛と喜んで、借りて費つて了つたわ……病氣も三月許りで癒つて了つたわ……茂十は心切者だ。お絲よ恩を忘れるな……で、一時は濟んだが、其十圓は返す事が出來ねへ。今日まで三年越し、何とかして返してへ返さねや濟まぬと思ひながら、其日暮しに逐はれて、今日まで忘れるともなしにイヤ忘れちや濟まねへが、其儘になつてると今度は其茂十が──急に心臟が惡くなつて、四五日前から大病人になつて了いましたヾア。』

下の卷

お絲は下俯向いて沈默、老僧は腕拱いて爐邊に沈默。主人は獵銚子を振つて、酒を求めるものゝ如く、そして溜息は連續する。

『アー一人が恩を返さねや畜生だ。茂十に恩返しするとは此時だと、直に茂十の枕許へ、十圓の金に利息つけて、持つて行つて遣りたいは山々だが、一錢の貯へもねへ中、仕方がねへで……昨日見舞だけに行くと、茂十が言ふにやア、仲の好い同士が斯麼事は言ひたくねへが、今度の病氣で金に困つた。お醫者樣の言はつしやるには、濱松の病院へ入れ。斯麼山の中ぢや養生が出來ぬ。一月懸るものなら、入院すりや一週間で癒る……こう醫者の上から諭して下さる。へは一昨年お主に貸した十圓、氣の毒ながら戾して吳れと云ひやす。俺ア辛い……俺ア實に辛い……が可しッ、二三日中に戾す。氣を大きく持つて、早く入院して癒すが可い……と云つて歸つたもの、お見懸けの通り此家の內だけの財產、賣つたつて買に置いたつて、一圓と云ふ値打の物はねへ……エ、脊に腹は代へらぬ。お絲が色の白いのを見込んで、蠻の豐吉めが、酌婦にしても十圓二十圓は出る。お絲ッ子は朝鮮か、臺灣へでも世話したら、百圓は貸す者がゐると言つたを思ひ出し、實は其男に頼んで。十圓借りて濱松へ遣り、俺の義理を濟まさうとしました。仔細は斯麼事でござねますよ。』

老僧は頷いた。

『解つたが御主人、お絲殿は小學校を卒業して附設の女學校へ入りたい希望ぢやと言うではないか

『ヒエー。』

『酌婦は望む所でない。』

『ヒエー。』

『お前さんは、父の權利で…孝行を娘に強ゆるのか。』

『ヒエー。』

『舊道德は今用ひられんよ。父母の病氣を癒す爲に、貞操を賣る娼妓になるなどといふ事は、決して孝行には成らんよ。縱令酌婦にせよ、幾月かを束縛される仕事で父は子に孝行を強ゆるこいふは、間違つてゐますぞ。

『ヒエー……ですが背に腹は代へられませんので、ツイ……。

『腹を背に返しなさい。父も個人、娘も個人、個人の爲に個人を犧牲にする事はお前の罪惡だ

『何の事だか、ちつとも判りません。』

『一沒分曉に何を言つても判るまいが、金は十圓愚僧が出す。茂十とかへ返金しなさい。お絲を犧牲に賣る事は、斷じて愚僧が許さぬ。』

『ヒエー。』

『怪しからぬ父だ。』

『ヒエー。』

『此十圓も俺の金ではない。本堂建立の爲に、淨財喜捨を求めて、今日まで俺の懷に預かつた金だ。寺の建築は二年三年後れたつて構はん。目の前に生きて行く人を救ふのが、吾々佛徒の勤めだ。今の宗教家は死佛に勤めて、活佛に努めて居らぬ。さア金を返して、お絲殿には義務教育から。補習教育をちやんこしなされ。そして父に强いられぬ子、良人に盲從せぬ妻に仕立て上げなさい

お絲も父も破れ疊に額を擦附けて、嬉し淚に咽んだ。其前には銀貨小紙幣取交ぜて、十圓の額は揃へられてあつた。

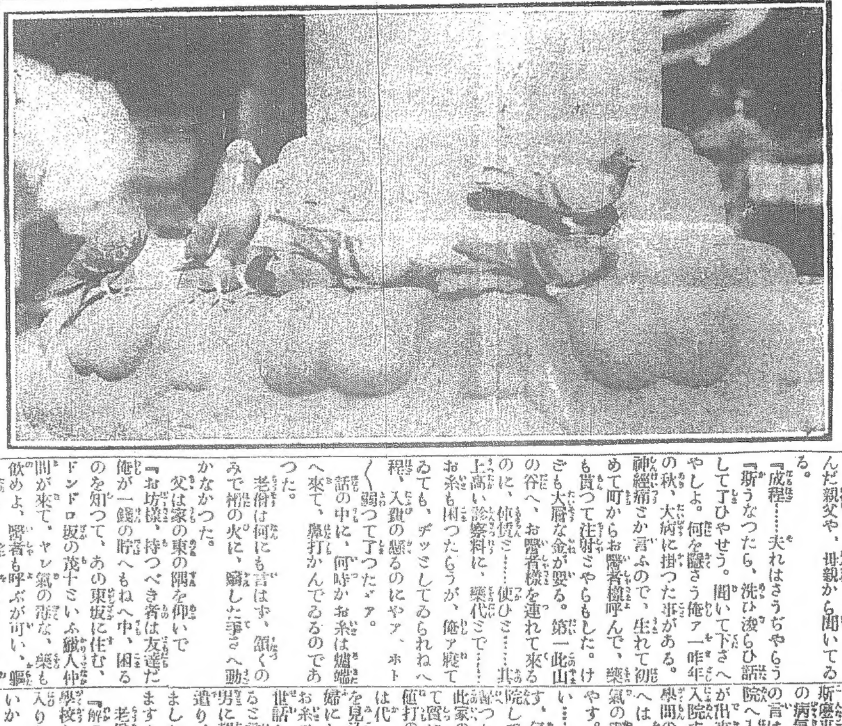
父は總掴みにしてゐた手拭ひで兩眼を拭つて言つた。

『お坊樣、良く會得が行きました。成程今までの夢が醒めました。父の威光で娘を盲にして汚はせ、父や母の困ると娘の操を賣らせても、自分が活きて行くといふ事の、惡い事が解りました。被仰る通り個人といふ事は、大事にしなけや成りません。』

六十の坂を越した此老僧の口から、斯る新道德が說かれるとは、人は豫想し得ない所であらう。

三人爐邊の閑話は、いつか盡き果た時、村社八幡社の上に、紫の色は晴れた曉を顯はした。

今此老僧は遠州一圓、濱松、見附、袋井、中泉さては森町の山の奧まで其名を知られ、天龍川の滔々たる水聲と共に、秋葉街道の俠僧として尊敬の的となり且操行を謳はれてゐる(終)



社頭

お孃さんの元旦

懸賞文藝

課題『朝』(和歌)　尾上柴舟選

撫順　玉木彼流男
はるけくも故國を離かれるさびしさにおのづと早く眼ざめる朝

仁川　岡本默郎
けふのよき日に生れ來し自らの生命をおもふこの尊さ

南川　山口　嗣子
大いなる光の中を愛し子と我とが歩むこゝちよき朝

東磐　窪田紅華草
向つ山傾斜畑に朝日さし培ふ人ののぼり行く見ゆ
若葉山細木諸葉をなべゆする風の光りて顫ふ朝日

鷄井　名島　浪夫
霜どけのゆけ立ちのぼる冬の朝枯野はるかに雉なくきこゆ

永登浦　富田　鵬響
ものゝ魂想るかに振りて鵲は尻を地にひけり霜の朝を

順川　總谷　わたる
アカシヤの實に音立てゝ白々と風の流るゝ冬の朝かな

元山　高田　ちよ
すじがたくぬくきふしどをぬけいづる眼にいたし朝の白雪

囚人逃ぐ

[illegible]に於ける囚人一人の犯人水原邑內前科一犯六箇月懲役囚尹面天(二〇)の手腕が外れ其儘光禮院方[illegible]

[illegible]び他の各消防手は警察構內に集合同九時小牟田署長並に吉松府尹よりの訓示あり勤續功勞[illegible]警鐘一打によりて常備班は直に出動開始豫て設らへられたる東公園廣場に於ける假想消火演習[illegible]習中止すれば小牟田署長は講評的一場の訓示を與へ同十一時宮町消防詰所樓上に於て新年の祝[illegible]の敬意を表せり(仁川)

仁川の初火事

一月二日午前三時十分仁川島石町二十四番地齋藤精米所機關部より失火せり損害約一萬二千圓原因目下取調べ中(仁川)

醉漢の悪戯

三日午後[illegible]男が美人の女に對して怪しからぬ所爲に及ばんとする處なるより[illegible]醉漢を引捕へ龍山署に突き出でたるものなりと

小火

三日午後八時頃龍山[illegible]が失火原因は家人の不在中炬燵より發火せしものならんと

鎮南浦　依田弘

朝鮮鎮南浦　勸果園農場　園主　荒木源之助
朝鮮鎮南浦明治町　勸果園販賣部　主任　電話一六番

鎮南浦港　米穀商　田上隆之

大阪商船株式會社代理店　船舶稅關貨物取扱　遞送業
朝鮮鎮南浦府三和町　合資會社　靑木組　振替口座京城二五二番　電話長五四番

鎮南浦　五島榮藏　電話五番

昌成金鑛々主　岩本直太郎

賀正

南浦材木商會　長電一五七　振替京城一三二

鎮南浦郵便局　鎮南浦海事出張所　職員一同

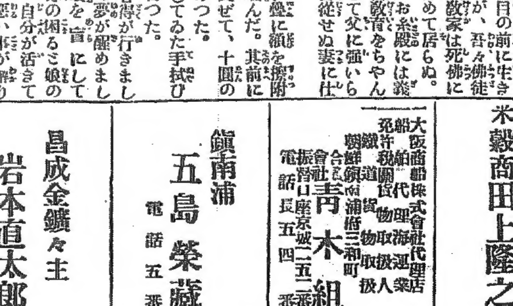
鎮南浦三和町　貿易商　廣元商會　電話三五八番

鎮南浦府三和町　直塚保三　電話一九番

鎮南浦府三和町　米穀雜貨　石炭一手販賣　貿易商　合資會社　富浦商店　代表社員　富浦福一　電話長一二二番

謹賀新年
大田面協議會員(イロハ順)
今井辰次郎　朴英來　李遠寧　大野與三郎　小田原正計佐　村尾伊勢松　荒川代作　須々木權次郎　末吉定十

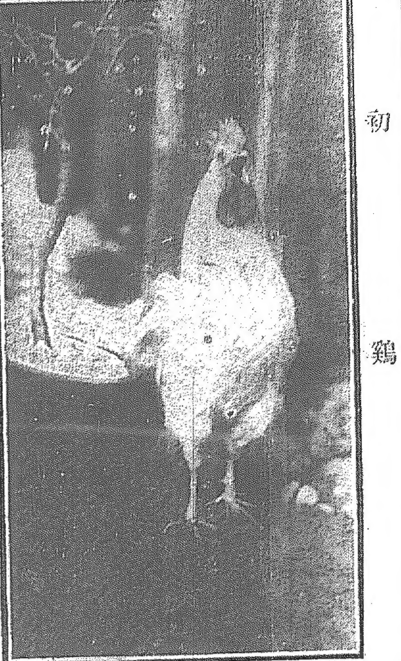
謹賀新年



謹賀新年
品質優良　官鹽　價格低廉
廣梁灣鹽田

賀正
鎮南浦　中島貫之

謹賀新年
安東株式商品株式會社所屬仲買人
原田市松商店　田中德商店　滿洲錢鈔交換株式會社　鈴木開之進　齊藤進商吉　安東商事信託株式會社　多田榮吉　住吉軍八　高木市三郎　大島忠七　原內淺次郎　滿洲證銀兩換株式會社　青木快三　正保帶太郎　安東貿易株式會社　李尙根　張鐘植　吳宗傑　邊熙寶　金國產　姜漢朝



初鷄

朝鮮の俚言及び傳說に現れた酉に就て

野崎眞三

日本の神代史には天祖天照皇大神の御代に於いて既に長鳴鷄として酉が史實に現れてゐるが朝鮮では新羅王朝・脱解王の九年(約千八百五十年前)に始めて鷄林の傳說として白鷄の現れてゐるのが恐らく朝鮮最初のものであらう兎も角

鷄林八道と

稱する朝鮮であるから鷄に緣が深さうであるが實際は內地と反對に案外鷄に緣が薄いのも面白い事實である。然しながら朝鮮の俚言と傳說中鳥類に關したものは決して尠くない自分の知つてる俚言の中で鳥類に關するものが約六十ばかりある此中で鷄に關するものが九つある。では何んな鳥類が朝鮮の俚言に現れてゐるかと云ふ事は一面に於て鮮人の生活と鳥類との關係であり朝鮮博物學史の一側面觀とも謂は謂へよう今此六十の俚言中に現れた

鳥の分類を

して見ると鷄九、鳥雉雀六、鳩五、鷄卵三、隼鷲三、鳶鵲燕鶴鳳凰二、四十雀鶉鴉鴨鷗の各一及び一般の鳥に關するものが五となり鷄は家禽だけに生活に一番交渉が深い事が判明する而して傳說の方から調べると之はまた鳥に關するものが誠に尠く從つて鷄の傳說なぞは全く數へる程しかない。要するに朝鮮は內地程鳥にも鷄にも緣が深くない樣に思はれるのである。

俚言に就いて

先づ鳥類に關するものから三四面白いものを擧げやう

(一)雉は頭ばかり草にかくす
(二)鳥は飛ぶ程・羽根が落ちる
(三)鳥は十二の啼聲をしてもごとも善くない
(四)鳥は黒くても肉は黒くないのだ
(五)燕が澤山雛を產んだ年は凶年
(六)鷹の子は親鷹をも喰ふ
(七)雁は百年の長壽を保つ

(一)は內地の頭かくして尻かくさぬと同義であるが具體的に云つてあるだけに一寸美しい(二)には因循姑息な一部朝鮮人の心理が見ねてゐる(三)鳥の啼く聲が十二あると云ふは新發見であるが

不吉だと感

じた點は內地人と全く同然なのも面白い(七)は支那から輸入したものらしい次ぎに鷄、鷄卵及び鳥に關する俚言を擧げる

(一)死んだ鷄にも戸税を負はす
(二)中庭を鷄が歩く
(三)鷄子狡には必ず鳳凰一羽
(四)鷄を食つて鴨の脚を見せる
(五)村の鷄が役所に入つた
(六)百人が自分の鷄を食ふ
(七)腐鷄卵がトキをつくるか
(八)線の鷄が鷄卵の樣だと怖む
(九)虫の音葉は鳥が聽き夜の言葉は鼠が聽く
(一〇)仔座の鳥は犬に吠る

(一一)は李朝末期の苛斂誅求に對する人民の不平である(二)は美人の惡口(四)は嘘言を平氣な朝鮮人の心理とも見られる(五)は極端なる官尊民卑の弊が現れ(六)は內地の『知らぬが佛』に類するもの(七)は內地の『天に棒』『子と海に七兩』と同義(八)は姑の嫁イビりにて

青春の美に

對する老人の羨望嫉妬は唐も大和も同樣と思はれる(九)は壁に耳ありと全く同義であるが俚言を綜すれば其民情風俗習慣など仲々面白いものであるが此等の俚言を通じて朝鮮人の鷄に關する觀念は家禽として若くは食料としての鷄のみで內地人の如く鷄に關する神秘的觀念は全く無いものと斷言し得るのである

傳說に就いて

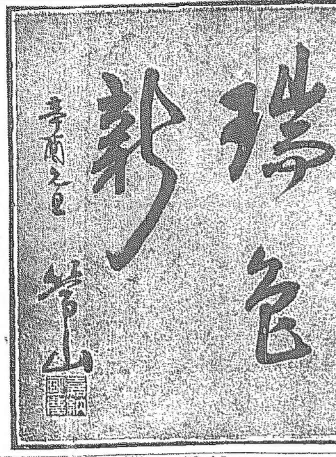
新羅王朴赫世出現の傳說である鷄林の白鷄は傳說の鷄として著明なものである此新羅建國當初の傳說に鷄の居た事には頗る日本味があつて學者だちが朴氏日本人說を主張するも無理からぬ事とも思へる。此他には鷄に關する傳說物語は殆ど無いらしいが鷄卵に關するものは一二ある今其一つを擧げて此稿を終る事にするそれは

不運な人間

に鷄卵にも骨があると云ふ諺の由來であつて傳說と云ふよりは物語かも知れない。昔々家柄の正しい一人の兩班があつた殘酷な運命に虐げられ立派な才能はありながら官職に就けば乾度災難の爲に職を解かれると云ふ具合で失敗續きに朝夕の煙さへ揚げ兼ねる程な貧窮に陷つてゐた。此有樣を聞いた知人が時の王樣に奏上したので王樣も氣の毒に思はれ急に任官するのも餓鬥があり金品をあたへるのも如何と思はれて思案の末、明日一日南大門を通過の商賈の商品を其の男に與へやうと

情ある言葉

と書き附けがあつたので兩班は天にも上る程に雀躍して喜び明くるを待つて南大門に出掛て商賈を待つて居たが如何した事か何時になつても商賈は一人も來ない午が過ぎ夕方になつても一人も來ないのでスッカリ落膽してゐたが漸く一人の鷄卵賣りが來たのでシメたッと計り此商賈の商品を王命だからと譯を話し書き附を示して貰ひ受け我が家に歸ると鷄卵の一つを割つた處が黃味も白味もあらばこそ骨が出たので不思議に思つて更に割れば割つても〱骨ばかり全部割つてしまつたが鷄卵の殼と骨の山が積れた丈で何一つ得る處が無かつたので此兩班は今更自分の不運な事を考へて天を仰いで長大息した」



加納鮮銀副總裁試筆

朝鮮語速記術に就て

方奎換 S生

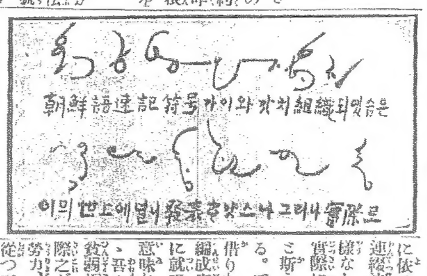
朝鮮語の速記法を新に作り出さうと云ふ目的を以て私共數人の著が其の研究に着手して以來約一箇年を經過した。そうして昨年五月一先づ朝鮮語速記法の根本の組立を終つた際、本紙上を借りて

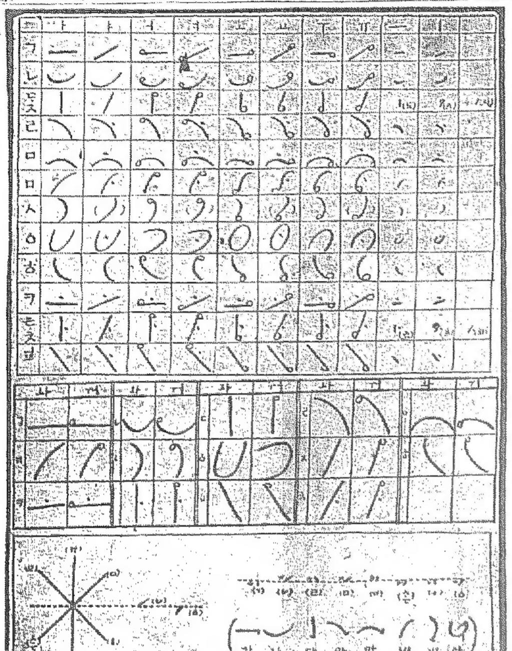
其の概要

を發表したが其の後更に之に基づいて連綴法の略記法、略符の制定とか、記號の改良とか云ふ樣なことに關する研究を續け、夫れも此程に至つて略ぼ纏りが付いた。之に依つて私共の企ては——完全なる成功と云ふ所へはまた〱前途遼遠であるが——謂はゞ半以上、三分の二方の成功と云ふ所迄到達したのである。夫れは此の事業の完成迄には大體三つの段階を經なければならないからであつて、即ち第一は朝鮮語速記法の基礎となるべき準備的の諸種の調査や研究をしたりなどすること、第二は夫れ

速記の方式

を決定しに依つて速記法の內容たる記號、連綴法、略記法或は略符と云ふ樣なものを整へること、第三は實際に應用する爲の練習熟達、と斯う云ふ工合になるからである。で要するに今回再び紙上を借りたのは、此の朝鮮語速記法編成事業の所謂『第二段』の終了に就て、其の報告と云つた意味からである。とは云ふもの、吾々は何分總てのことに就て貧弱極まる者ではあるし、又實際之が爲に非常に多くの時間、勞力、費用を費した譯でもない從つて世間に對して誇り得る樣な立派なものは出來なかつたのであるけれども、更に猶一應之を公表することにした。但此處には唯記號を揭げたに過ぎないが、もう少し私共の研究が進んだならば其際取纏めて印刷物にでもして見たいと思つて居る。





大田春日町二丁目 大田石灰製造所

大田 儒城溫泉

大田本町二丁目 米穀商 鶴川商店 電話長一一〇番

大田本町 南部京平商店 電話四五番 電略(ナ)

大田春日町 建具一切人車駐車場 福崎茂市 電話三四番

大田春日町二丁目 土木建築及請負業 安藤清江 電話一五四番

賀正

大田飲食店組合

大田春日町 大田皮革株式會社 電話長一三四番

京城永樂町二丁目 京城競賣株式會社 電話七八四番

大田春日町一丁目 小橋自轉車店 電話長一五番

大田春日町 薪炭 岡商店 電話二〇一番

京仁線永登浦驛前 大塚醬油釀造所 電話一〇番

全北裡里驛前 運送組合(イロハ順) 裡里運送合資會社 電話一五七番 加茂運送店 電話一〇四番 栗原運送店 電話一〇六番

全北大場村 侯爵細川家 朝鮮農場

諸雜貨卸商 朝鮮京城本町二丁目 森久商店 電話長二五〇番 振替口座京城一〇番 電信略號モ(モリ) 支店所在地)平壤、新義州

入蔘エキス本舖 朝鮮高麗人蔘直取引 其他朝鮮特產品貿易商 津村兄弟商會 朝鮮京城本町 電話一四八〇番 電話一八七〇番 振替京城三五一一番 振替京城四四四〇番

龍山漢江通 土木建築請負業 服部房吉 電話五五六番

大田警察署長 長谷川豊治 電話一四五番

大田工務所長 松田一雄

大田本町 大田ゴム商會 電話長一〇一番

大田典獄 横山藤一郎

土木建築請負業 須々木俊次郎 電話一四八番

全北全州 寫眞業 向陽館

全北金堤邑 大正旅館

安東縣市場通 書籍文具 文榮堂 電話三七番

下關市西細江町 錦いか本舖

下關市長 賀正 李家隆介

鎭南浦三和町 伊丹運送店

鎭南浦 和洋雜貨商 鬼頭商店 長電一四四番

鎭南浦 加藤精米所

鎭南浦後浦里 米雜穀委託賣買 日本生命保險代理店 大津幾三郎 長電四九番

鎭南浦 醬油味噌釀造 藤本釀造所 長電二七番

鎭南浦 野田良二

鎭南浦三和町 綿糸綿布卸 清酒醬油商 鈴木種一商店 電話一二番

鎭南浦水產株式會社

朝鮮鎭南浦府三和町 米雜穀輸出 原塩再製販賣 麵粉販賣 宮本浩輔 電話長一〇五・一〇六 電略(ミ又ハミ)

京城本町二丁目 御料理 北村清香園 北村清太郎 電話一三七六番

羅紗綿絹麻織物輸出入商 株式會社 睦商會 京城府南大門通二丁目 電話長參參九五番 振替口座京城貳參番
直輸入綿紗商 睦商會出張所 大阪市大川町 電話長九八 振替口座一八八六番

東亞蠶糸株式會社 京城支店 京城出張所 密陽出張所 春川出張所

釜山府牧立島 宮本造船所 電話長一二番

京釜線龜浦 朝鮮纖維工業所

釜山絕影島洲岬 中村造船所 電話二九番

朝鮮興業株式會社倉庫部 伊藤倉庫株式會社 釜山共同倉庫株式會社

謹賀新年 京城府樂園洞九九 朝鮮畫薰麗派 藝星會

恭賀新正 朝鮮畫薰麗派藝星會 總務 金心畝

會席御料理 京城南山町二丁目(總督別莊內) 花月別莊 電話三六九番

常設活動寫眞 釜山驛前 株式會社 國際館

大田材木商組合(姓名いろは順)
大田春日町 濱直 長電話二〇八番
大田春日町 上田豊治
大田本町 富士平平 電話長六三番
大田本町 新原 長電話一三一番

大田學校組合評議員(いろは順)
島山源一郎 塚原義親 中尾常次郎 成松宇多吉 永野廣治 藤井松弍 安宅兵太 佐藤惣太郎 須々木權太郎

謹賀新年 价川輕便鐵道 事務所(平安南道軍隅里)

謹賀新年 京釜線鳥致院 柴田定助 電話五番

謹賀新年 京釜線鳥致院 前田組

賀　1921　正

清項 梅本庄太郎

海陸運送業 新義州濱町 西村組 電話一二番

安東縣三番通五丁目 大東洋行 電話四四五番

新義州濱町 北方商會 電話一五〇番

新義州府 錦織足千代

安東縣四番通三丁目 野村號 電話九三番

元山府上里一洞一十五番 貿易商 元山貿易株式會社 電話一三一番

元山府銘石洞一二六 醸造部 合成醸酒所 電話五四七番

仁川本町四丁目 米雜穀委託 販賣輸出商 北嶋五郎商店 電話 二一七二番 電話（キ）又八（キタ）

京城大和町一丁目 辨護士、特許辨理士 松本正寛 電話一〇五四番

諸機械船舶製材機械類 工業用器具製作並修理 原動機其他一般機械設計据付 付屬物類一式東京桑田 工業製紙材料 鮮一手特約販賣店 安東縣四番通五丁目 安崎鐵工所 電話二一八九番 電略（ミ）又は（マサ）

大邱府東城町 丸嶋商店

大邱 東洋杞柳株式會社

慶尚北道 蠶種業組合

慶尚北道 果物同業組合

慶尚北道廳 勸業課一同

大邱府大和町 小林金物店

大邱郵便局長 成田勝虎

明けましておめでたふ 本町宮川 いろは樓 富勇 喜美勇 秀勇 音丸 若奴

京城太平通一丁目五八 貿易商 駿府商會 電話二二六一番

京城太平通一丁目 鮮人向陶磁器商 三浦幸一郎商店 電話一六六九番 振替京城一三二四番

内外果實青物卸專業 委託問屋 松原筆藏商店 京城南大門通り三丁目 電略（マ）長電話一一八三 振替口座京城一一八三

京城本町二丁目 屋號 井上履物店 電話一三七五番

成興東亞蠶絲出張所 岩田敏太郎

麻裏護謨雪駄製造販賣 是印護謨靴特約店 仁川宮町一丁目十四番地 吉田商店 電略（ヨシ）

仁川龍里 福西製粉所 電話三二六番

京城競賣株式會社

京城南大門驛前 笑福旅館 電話一五五一番 ◎懇切、正直、勉強◎

京城本町一丁目 砂糖諸粉卸小賣 澁谷商店 電話七七一番

京城本町一丁目 和洋紙 帳簿 文房具 印刷 北内紙店 電話一二五番 一〇二番

清州清水町 吉原治三郎

清州憲兵隊 宗安理作 小田金平

清州本町 雜貨メリヤス商 中村格一　清州本町 新古衣類商 日向松次郎　清州本町 印章彫刻 天賞堂 根来金次郎

成興錦富町 西洋御料理 西洋軒

黄金町シンガーミシン會社 主任 足立盛太郎 京城黄金町二ノ九八 電話一五四一番

京城本町一丁目 和洋建築金物商 井原京城支店 電話八三六番 本店 奉天 支店 安東縣 電話三二三番 天電話七二一番

京城永樂町二丁目 洗張 染物 龜屋染工場 電話一五八五番

鎮南浦公立商工學校長 佐藤松治郎

謹賀新年 大邱府前町 魚吉事 大和 電話三十五番

大邱東本町 世良工務所

慶尚北道第三部長 新庄祐治郎

浦項 佐々木悦藏

浦項 迎日灣漁業組合

浦項 中谷竹三郎

慶北 迎日郡廳員一同

慶尚北道廳 高等官一同

大邱繰綿工場

謹賀新年 大邱府村上町 料亭 明石 電話九十七番

賀正

茲に聖代の新春を迎へ皆様の御清福を祈奉る

弐千五百萬足。夫れは大正九年度に於ける福助足袋の需要高であります。決して驚く數ではありませんが、足袋界では新記録なのです。然も夫れは一に御愛顧皆様の御援助の御庇に外ならないので御座います。由來福助が萬人向きの足袋として好評あるは唯『體裁の美』を指した外面的の價値ばかりでなく、更に『丈夫で温い』といふ内面的の價値と相俟つて動かぬ美點を持つてゐるからで御座います。足袋が生活上の必需品である以上、生理上風儀上斯うした完全なる足袋が全國の皆様に御愛用を蒙る事は、結局文明史的に貴い意義を有してゐる事と思ふ時唯々感激して已まないので御座います。冀くば本年も一層の御愛顧を賜はる樣、偏に御願申上げます。

大正辛酉一月元旦

福助足袋株式會社
東京支店
大阪支店
京都支店
九州出張所

慶安太平記

第六十席　小金井芦洲講演

生さぬ仲で誠に邪魔にしてゐたんだけれども、倅てかういふことになつて見ると義理もあります、涙を流して其れへ來て母『何ういふことです丹三郎、假ひお父さんが何と被仰つても、其所はお前が了簡を入れ替わて御意見に從はねばなりませぬ、勘當如何にも承知をしたの結構だのと言ふのは何と言ふ口の利きやうです、ザアお詫をして』父『お前默て、聞きなさい、お前が兎角に義理があるから執りなすに由つて本人が増長をして可かぬ、家を出て有とあらゆる苦勞をしてから始めて目がさめるのだ、サア早く何所へなりとも勝手に出て往け、けれども何んだぞ斷つて置くが、親の光は七光り、此の播州の明石に居れば戸村丹南の倅だから人が若旦那とか若先生とか尊敬をして居るが此家を出て見ろ、途中で逢つて貴樣に言葉も交はす者もない、右を見ても左を見ても他人ばかり、寢るに家もなく喰ふに食もなくなつて、お父上全く私の心得違ひ故御勘辨下さいませなどと人を以て詫びて來ても、再び此の家の地幅は跨せぬから其の懲りで居れ』丹『ハイ、それは勿論でございます、男子志を立て、郷關を出づるからには業成らざれば死すとも再び戻つては參りませぬ、北は松前箱館、南は筑紫薩摩潟の果てまでも皆な自分の家でございます、ナーニ到る所青山あり、世の中の事を言ふ者はそれ程案じたものでもございませぬ』父『減らざる口を利くな大白痴、サア早く出て行け』丹『ハイ、永く御厄介になりました』青年の身の無賴著、有らうとか正月の元日といふのにお互ひに言ひ爭つて止むる繼母の手を振切り播州の明石をプイと飛出した、出は出るたけれども倅て何處へ行かうと言ふ的がない　丹『ハーテナ、何うしたものだらう、縁なき衆生は度し難し木を伐るには斧、川を渡るには船を用ゐなければならぬ、何か寄るところがなかつた日にやア何うにも身を立てる譯に行かぬが取敢ず何處へ行かう』暫く腕をくんで考へて居たが不圖思ひ當つたのが元自分の家に仲間をして居た傳兵衛といふ者が播州姫路の郷里に戻つて今では立派に御領主本多大内記樣に人入業を致して若狹屋傳兵衛、大層年始には始終手紙なども寄越して消息を聞きに來る、此れを思ひ當つた、晝夜兼行足に任して同國の姫路を指して乘込んで來ました、明石から見ると姫路は又一際に結構な所で御城下などの樣子が全然で違ふ、況して松の内のことで常よりは賑やかでございます　丹『コレ〳〵一寸物を尋ねるがのう、姫路の二階居町といふのは何方だ』○『二階居町といふたら是れから二丁程上手で……』丹『ハア左樣か』通り掛りの者に道を敎はつて其儘やつて參りました二階居町、丹『エー一寸尋ねるが、此二階居町に稼業をして居る若狹屋傳兵衛といふ者がある筈ぢやが、存じて居るならば敎へて貰ひたい』△『若狹屋傳兵衛と言ふなら向ふで、あの表に大きな暖簾が掛つて荒い格子の立つて居る』丹『オ、左樣か……』食はず呑まずにやつて來たので腹はペコ〳〵懐中には一文もなし、思ひ込んだ所まで來て、サア若狹屋が其れだと言はれて見ると一層に飢じさを感じて來た

ひもじさと寒さと戀と比ぶれ
ばはつかしながらひもじさが
先き

何がつらいと言つて世の中に空腹位つらいものはない　丹『ヤア何うも腹がへつたな……許せよ』折から主人の傳兵衛は他出して留守、女房のお峯『イヤお出で遊ばしまし』ヒョイと見ると色の眞黒な骨組逞しい立派な若侍でございます。

與太吟

編輯局の誰彼へ…　壽夫

○
矢橋さんおめでたう！
大きな身體に從軍服著けて
造作の大きい眼、鼻、ロー
どう見てもロシヤ人、
和製セミヨノフとは蓋し適評
ポケツの中には年から年中
ブラツシユを潜ませて
夜店のステツキのやうな、
疎らな髮の毛を撫つける。
醉へは唇應用で……
プロペラーの爆音！
お、アタマン、ヤバシ！
今年もまた—
哀れな數莖の頭髮を
拜見させていただきます。

○
北川さんおめでたう！
平素は春の海のやうに
温順しくつてゐらつしやるが
一杯きこしめせば
凪のやうに嚇々しい』
醉へば義太夫を唸つて
聽者を惱ますこと一方ならず
線東喰が腐るだの—
殊に口の形ちが—
伸縮自在なのと
催眠術だのと許するのは、
蓋し同情が無さ過ぎる！
謹んで……茲に
顔面表情が千變萬化するので
表情義太夫の泰斗……と
尊稱を奉る！

○
今年もまた—
汽笛のやうに罵調な
義太夫を聞かせて頂きます！

川柳　創花坊選

○仁川　紅短冊
カンニング先生そろり〳〵。
ポケツトに先生ほどの錢の音
評『ほどゞが利いて居ます。ちよつと面白いと思ひます
遠足の先生握り飯で濟み
評　これが私のよくいふ『北潮川柳』です、紅短冊君ほどの人が、こんな句を作つてはいけません
○京城　白菜坊
てんかんを特餘してる女敎員
○潜町　勝野生
感心をしても先生首をまけ
○平南　如牛
竹篦を先生にするこわい事
評　佳句
○京城　貞子
先生と云はれて照ひつませ
○仁川　夜叉王
先生を鬼門にしてる惡太郎
奥さんと背中合せに敎へてる
評　好寫生、佳句

新年文藝

○元山　楢田　紫烏
冬の陽はつめたく照りて霜枯れの木の葉散りこむ湖の朝かな
京城　中村　百姓
曙りつゝだく山の山腹を日は昇るなり元旦の朝
○鷄井廓　名嶋　浪夫
すより來し年賀狀など佛壇にあげて老母の朝つとめすも
大つ陽のかげうるはしく年たてど大天地は寄ましろなり
○光州　久我　思秋
悲しみも憾ひもわすれ此朝心しづかに屠蘇をし飲むも
春立てど年はかへれど双親の惡さければ旅にし迷ふ
○京城　城田　山翠
道のべのささら小川に小魚どもあまたならびて春日浴みをり
芹摘めばひひろと啼きて行きし鳥無寄の山は雲曇りせり
○京城　木村　巴東
思出の夢よりさめて戸をくれど社寮に春の雨ふる
朝來啼く小鳥は神の御使か太古に似たる森の靜けさ
○鷄川　熊谷わたる
頰に觸る湖畔のあけのびろうども心にうれし初月の朝
○鷄井　名嶋　浪夫
ゆつくりと獨り朝陽にひたりなれば身も魂も溶けゆく心地
○東鶯　窪田紅節草
朗らかに朝陽の照れば屋根の雪まだらに解けて滴り落つも
猶月の弱き光りに打ぬれてそゞろに道を一人步めり
南川　山口　朝子
かにかくに我等二人も生きてしさつくづく妻にみいりたる朝
仁川　岡本　默郎
元朝のこゝろとなりて見るものかおごそかにのぼる日輪
○撫順　玉木波浦男
新らしき春は來りぬ閉されしわがこゝろ今をどらんとする
馬山　武永　正人
朝早み雨戸を繰れば母が捷むぴんがしの空ほのに明しも
龍山　百瀨　千尋
新潮のひたひた寄する渚に立ち鵝呱つ人も見ゆる朝かな
龍山　安河内はたを子
冬のあさけ我夏服のほころびにもろ手をあてゝ勤めに出づる
學び家に通ふ子等も出し終り靜ふきぬる朝のたのしき
河東　高橋美世子
元旦のみそらあふぎて病む妹のかゞけきこゑに歌を唄ふも
京城　智居京酒家
物皆はまだ靜かなる宮の邊に長鳴鳥のきこゆなり
仁川　吉田　よし
若水くみつゝかはす僕等の今朝の言葉の清く樂しも
京城　對馬　深溪
大空に澄れる心地高嶺より日の出か見れば太古に似たり
新義州　三浦吉之助
朝戸あけて若水くむと出てゝみればかど川厚く氷しにけり

一月六日
舊曆十一月廿八日　▲木曜日▲己巳▲六白▲暗剣戌亥▲玄引▲斗宿▲定

▼六白▲圖らず横槍の來る事ある日唯眞面目にさへ守らば安全
▼七赤▲手順よく物事整ふ日なるも調子に乘り過れば失敗す
▼八白▲欣快の日起業開店求職結婚其他女子の獨立を圖るに妙
▼九紫▲不意に邪魔の這入る日不平不滿を云ふは禁物盜難用心
▼一白▲至極上首尾の日待ち設けた事に吉報を齎すやも知れず
▼二黑▲急がすとも望む所までは達すべき日由なき心遣ひ無用
▼三碧▲不快の日我に過失なくとも怨まれ易し兎角諦めが第一
▼四綠▲冷靜なれば自然に發展し且合點して思はぬ損失を招く
▼五黃▲中庸を得て片寄らざれば利ある日遠くへの旅行等は凶

仁川の出初式

仁川警察署にては恒例に依り四日午前九時より仁川消防出初式[illegible]二名に對しては特に此日を以て表彰式を行ひ終つて府廳正門前に整列しある機械器具の點檢[illegible]を始め五個の水管より放射する水龍は天に沖するの勢ひを示し輕快なる動作は瞬時にして全く[illegible]盃を擧げ散會、是より先喉備消防隊は府廳門前に於て梯子上りの妙技を演じて直に大神宮に參拜[illegible]

手錠が外れて

卅一日午前十時半頃水城等寮署から三名の既決囚を西大門監獄に向つて逃走した急報に接し犯人を追跡した途に發見した[illegible]

[illegible]火あり常備消防隊二臺の自動車を驅つて時を移さず出動消火に盡したる結果同機關工場一棟と[illegible]

三時頃龍山元町二丁目路上に於て悲鳴を擧げて救ひを求むる婦[illegible]したるが醉漢は高島醉漢孔鐵[illegible]一〇四方照榮(三二)と云ふものて被害者は某內地人方の女中[illegible]

渡江通り十一番地[illegible]方より出火し通行人之を認め[illegible]ひに大事に至らず消止めたり[illegible]

謹賀新禧

輸出入貿易 商倉庫業
安東取引所仲買店
安東縣五番通九丁目
齋藤進商店
電話 日一七八番 日長五四九番 五六二番 中國二六五號

安東縣江岸通
安東木材株式會社
電話一〇八番

株式會社安東株式商品取引所仲買人
滿洲安東縣市場通
原田市松商店
電話 四十番 七十四番 四〇四番 八十六番 一二一番 二七〇番

新義州本町
宮澤運送店

新義州驛前
米田運送店
電話一四二番

新義州眞町
永井寛龍
電話二七〇番

新義州本町
大谷精米所
電話七番

新義州
下駄古板製造販賣
福永商會

新義州驛前
渡部運送店

新義州築町一丁目
東嶋鐵工所
電話三〇番

新義州常盤町
和洋雜貨
渡邊支店
電話五八番

新義州常盤町
新義州酒造株式會社
電話三二番 振替京城八〇二番

平北新義州
平北農蠶株式會社
電話二五一番 電話二三〇番

新義州眞砂町
土木建築
佐野岩吉

全州郡高山
高山金融組合
理事 上田道太郎

京城蓬萊町四ノ六七
東亞牧場
電話二一三番

京城府龍山漢江通（電氣會社向イ）
建築銅器製鐵銅鐵板金並看板
田中工作所
田中卯一
電話八一四番

京城南大門外
古賀福太郎
電話長一四〇番 電話長七一八番

京釜線鳥致院
重松旅館
電話一九番

京釜線鳥致院
米穀貿易
岩滿商店
電話二六番

京釜線鳥致院
內科小兒科産婦人科
醫師 勳六等 佐々木八治郎

京釜線鳥致院
米雜穀委托販賣
田中陣平商店
電話五三番

大田本町一丁目
內藤氏雄
電話長八番

大田本町二丁目
織物商
扇商店
電話長六一番

大田 東
農場 和光園
電話二四九番

大田電氣株式會社長
古谷虎雄

大田春日町
福田呉服店
電話一六二番

大田中學校
關本幸太郎
安藤文郎
堀政助

料理
仁川山手町 食道樂別莊
仁川宮町 食道樂本店

大田春日町一丁目
土木建築請負
長澤貫一郎

宣川本町
運送業
佐々木運送店
宣川特産改良綿香濟木炭販賣

宣川本町
洋和雜貨石炭木炭商
有門商店
振替口座京城一七四八番

宣川本町
海東旅館

江陵
李宅奎

江陵
吉野麟至

江陵
渡邊勇次郎

江陵學校組合
管理者
吉田由松
塚原作四郎
中原喜助
赤田保太郎
井出龜

江陵酒造組合

江陵酒造組合
理事兼專務
角田五三郎

金物商
波多野繁

江陵
醬油味噌製造販賣
堀口覺兵衛

江陵
雜貨商
貫田方介商店

江陵
御料理
清乃家

江陵
土木請負業
勝田義市

江陵
藥草栽培業
一貫園

江陵
御料理
富士家

兼二浦精米株式會社

全北金堤邑
阿部農場
奧村竹三郎

全北金堤邑
東洋拓殖株式會社金堤支店
支店長 安井亮

沙里院運輸倉庫會社

京釜線鳥致院
米穀貿易商
辻川喜助
電話九番

京釜線鳥致院
鳥致院松函石油組合

大田宿屋組合（いろは順）
千歲旅館
筑紫旅館
大田館
對島屋旅館
中川旅館
笹山旅館

釜山郵便局長
小島源藏
釜山郵便局
池田魁
森田省三
戶島眞男
林泰五郎
渡邊弘太郎

全州相生町
全州遊廓組合

大田本町二丁目
中尾酒造場
電話長五四番

營業科目
北滿吉林各木材、各種電話材料、電燈機械材料、鐵路建築材料代辨各國電汽車、各種水電機器、五金鐵料、官准鎗械火藥機器鐵工廠、各種機器油電話取付設計工事迅速可致候
長春東斜街
和登商行
電話長九八四七〇番
振替口座大連一九五
哈爾賓支店、吉林支店

長春驛前
材木賣買並ニ製材業
滿洲木材株式會社
電話長五九三番

龍山漢江通
株式會社十八銀行新龍山支店
電話五五〇番
龍山元町二丁目
株式會社十八銀行龍山出張所
電話一八番

大正製藥株式會社
朝鮮支店

彌生町貸座敷業組合

京城長谷川町
朝鮮製藥合資會社
電話一三〇九番

長春取引所信託株式會社
事務所 電話三二一〇番
事務所社宅 二八〇番
支配人宅 三〇〇番

滿洲長春
石炭貿易商 大昌洋行長春支店
發信略號（タイ）又ハ（タイシ）
電話長五八二、五三九、三九四

船具塗料諸油金物商
村谷吉藏本店
仁川本町四丁目
電話長五十六番 電信略號（ム）振替口座京城五九番
京城南大門通り五丁目
京城出張所
電話三七一番

仲買廢業 續出模樣

昨年末の紙上に報じたる如く京取信託組合の資金融通方法内規を無視し買方擁護にすぎ天日專務の態度專横にして公平を失せりとて憤慨する仲買人連の辭表は續々提出されん模様あり現に舊臘三十一日金融龍氏廢業届けを出せるを先職として四日委員長田中友吉委員古閑豊記兩氏の廢業あり引續き天日氏等の態度如何により五六名の廢業者出づるもの、如く有田長氏等主として交渉中なり

市場側の態度

市場としては信託組合の處置必ずしも失當にあらずとの見解にて右に對する不平仲買の廢業は止むを得ずとの見地に立つゝあり前途の形勢樂觀し難し

新春市況

初荷を送り出せる後の市況は屠蘇の香ほり醉めやらず閑散を極め居れるが大體昨年末に於て一般商人は財勢不況の大勢より打算して冬物の如き概して仕入手控への状況に至りし處中には大節季に接近して意外の賣れ行きを見たる爲俄に内地仕入先に打電して品揃へをなしたる向きもあり而して此等商人と雖も商品は概して先安を見越せると既に一巡賣盤したる場合とて今後冬物仕入は當用口の需用に應ずる程度に止め寧ろ春衣の仕込の有利なるを信じ此方面の相場聯絡を開始し居れり

京取立會變更

京取市場は四日より立會方法を變更したり即ち從來は十五日を一區域としゐたるも新方法は今週中來週中の二本を立て毎週土曜後場を以て締切り翌月曜受渡しをなす事となる由

鮮七總會

朝鮮土地建物株式會社にては來る二十日京城公會堂に於て定時株主總會開催九年度下半期營業報告貸借對照表等の承認を求むべく配當は多分前期同様一割見當なるべし

商況

○日銀帳尻 三十日現在(千圓單位)

發行高	一、四五八、六七一
正貨準備	二、二四、九二八〇
發行餘力	九八、三九〇
貸出高	二六五、七四四

○鮮銀券日報 卅一日現在左の如し

發行高	一一四、〇三四
正貨準備	六二〇
限外發行	六四、一〇二、一一七一

財界閑話

明けまして御目出度う本年も相變らず御ひいき御願ひ申ます△四日は銀行まつり、行つても會社に行つても店員は例の通り△唯京取市場の信託組合の舊臘の不買の云ひ分に對する不平仲買の辭職の遺憾△信託組合と仲買人の間の一理あり△重役の反感も手をつけるも△あら重役に對するこの治まりかゞうなるか、一般ではやかでないやう

株式 (後會)

前場は穩健

目出度き發會の當日とて參觀席も滿員の盛況午前十時三十分すぎ釘本社長から發會の挨拶三嶋副委員長の答辭など次第の後手打ち式をやって立會……方法を今週中來週中の

二本に分けたるが

京取寄附は今週二十二圓八十錢來週二十二圓八十錢と舊臘の大引けに比し十錢下鞘により來週中に於て二十三圓あり、しも結局二圓安で大引仁取百四十五圓より七十錢と上伸納會に比し一圓二十錢鮮滿殖銀新三圓より五十錢鮮銀百十四圓六十錢東拓十四圓六十錢より九十錢と小强くその他の諸株概ね穩健の商狀を呈し大引せり

京取底堅し

京取は昨年末の受渡しに於て買方窮し受株の捌きに困じ居れりとの噂ありしも立會へば存外相場はシッカリにて二十二圓六十錢より三圓までを往來し安値にはまとま

りし買物ひそめるや

に嗷されたり蓋し今日の相場は年末の高値より小三圓方の低落にて何れかと云へば下値寂しき採合あり弱氣は三十圓割れを云為しつゝあれど相場の前途は果して如何唯仲買

の廢業續出の模樣に

つき夫等の材料により一崩れあるやも期し難し

堅實株買氣

殖銀鮮銀東拓等の堅實株は昨年末以來買氣あり今朝は何れも大納會の出來値に氣配を上廻り手合せ成りたり殊に殖銀新は十三圓の買物少なからず入り込み居れる様なりしか或は增配を見越せる買物にあらざるか尚は堅實株は内地も買氣あり或は一段高さとなるやも計られず

京取紛訌悲觀

京取信託組合の運用に對する仲買人の不平は利害問題をからみ居るため前途の成行き樂觀し難し既に田中委員長古閑委員金融龍三氏の廢業あり尚は嶺田の模様にて此の現象は市場賣買の激減となるにあらずやと氣づかはる殊に田中の如き大手の退場は影響甚からざるべしとて悲觀せる向もありき

仁取株氣丈

仁取株は發會百四十五圓より七十錢と伸びたるが昨年末の波瀾に際し安値の買物は仁川の某有力筋にさらはれたりとの事にて賣物薄の模様ありココ買物出づれば相場はヂリ高を免れざらんか

立會改正と材料

四日より立會方法を變更して今週中週中とせしか右の結果乘り替へ可能となり思惑はやりよくたれど然し乍ら手數料高きため乘替又乘替への

續行き

又手數料損となるにづ高きため乘替又乘替へ大して惡材料となしかたからん

主要株歩み値段

京取(今週中)	二三、八〇	二三、九〇
	七〇 六〇	二三、〇〇
京取(來週中)	二三、八〇	二三、九〇
	九〇	八〇 七〇

京城現株市場出來値(四日)

銘柄	今週中	來週中	銘柄	今週中	來週中
京取	寄 二三、〇〇 引 二三、五〇	二三、〇〇	京電	寄 四〇〇	
殖新	寄 一三、〇〇 引 一三、五〇		同	寄 三、〇〇	
同新	寄 一三、〇〇 引 一三、五〇		電興	寄 六、〇〇	
鮮新	寄 一四、五〇		東拓	寄 一〇、〇〇	
東新	寄 一五、〇〇		朝煙	寄 三九、〇〇	
仁取	寄 一四四、〇〇	一四五、〇〇	鮮郵	寄 一、〇〇	
鮮銀	寄 一四五、〇〇		殖鐵	寄 八、〇〇	
新	寄 一〇、〇〇		中鐵	寄 三、〇〇	
銀	寄 八〇、〇〇		滿鐵	寄 一〇七、〇〇	
銀	寄 八、〇〇		同新	寄 三、〇〇	
商銀	寄 四〇、〇〇		滿毛	引 一三、〇〇	

本日乙部の商内

乙部の商内は安取十七圓十六錢より八十錢と伸び大新六十五圓三十錢より七十錢東新七十七圓六十錢上取七十一圓鮮取三十七圓日石新七十九圓にて出來せるが立會變更と共に當地株の商内も追々多からん模様なり

賣買差引殘

二十錢と縮り十七錢と强硬に打止めたり

賣方 全八〇〇石 ▲三二、二〇〇 ▲二、二〇〇 ▲四七、五〇〇 ▲山五〇〇 二〇〇 ▲九海九〇〇 ▲一、〇〇〇
買方 ▲又九一、二〇四〇 ⑦六、八〇〇石 ▲二、〇〇〇 ▲囲三〇〇 ▲五〇〇 ▲六〇〇 ▲一、六〇〇 ▲余五〇〇 ▲三〇〇 三〇〇 ▲丸北三〇〇 ▲四〇〇

初相場懸賞 七日發表す

銀塊小弛るむ

倫敦銀塊(四日入電)四十片八分の七

米綿昂騰す

米綿相場(四日入電)二十圓五十錢高

東京現株特電(四日前場・後場)

銘柄	四日前場
鮮銀	一二〇、〇〇
同新	三三、〇〇
東拓	四六、〇〇
同新	一二、五〇
滿鐵	一〇二、五〇
同新	一六、〇〇
殖銀	一四、三〇
同新	一一、三〇
東株	一三二、五〇
同新	七三、〇〇
滿毛	三六、五〇
速取	一四、〇〇
朝紡	一三、〇〇
滿蒙	二〇、〇〇
日紡	八九、〇〇

大阪株式特電

出來高 二千八十枚 乙 三百五十枚
累計 甲 七萬五千二十枚 乙 五千九百五十九枚 七十錢

銘柄	四日前場寄付	四日前場大引
大株	一一八、九〇	一一七、〇〇
郵船		一三五、六〇
同新		
商船	六六、三〇	六五、九〇
同新		
鐘紡	二三五、〇〇	二三三、七〇
同新	二一九、九〇	二九八、一〇
東紡	一二五、〇〇	一二四、二〇
東鐵	一七四、七〇	七四、二〇
上取	六九、四〇	六八、三〇

安東株式特電

○四日

	寄付	大引
安取當	一七、五〇	一七、六〇
先	一七、八〇	一七、八〇

米況

仁川期米初會

百十丁の上鞘に初會せり

今四日初會は天候晴天にて市場立錐の餘地なき迄來場者を以つて埋められ理事長の挨拶に次で立會を開始したるが舊臘以後の休會中各地聯正米の氣高を受け當二十三圓十錢中二十二圓丁度と何れも大納會より七八十丁の上放れに始め先二十三圓十錢り(四日)

▲第二節 當二十三圓〇五錢より圓丁度と弛ろみしかば中二十一圓七十錢始め十口手詰めに六十錢と下迎りしも新規買發へず〇五錢より二十錢と締まり軟調の防戰に一錢と押し四錢と手堅く引

▲第三節 當出來ず中二十一圓六十錢より五錢を採合ひ先十錢より一二錢を一服風情に引

▲第四節 當出來ず中六十五より五九錢と下迎りしも小口の買物に六十錢と持合ひしかば新甫も十錢に始め九錢と採合ひしも引際④三引買にめ

釜山正米特電

今朝初相場は立會前人氣好況にて穀良二十六圓所の高値賣買ありしか後擬して軟弱となり穀良二十四圓八十錢三等神力廿三圓八十錢所の平均値段を見て二萬三千叺の商内出來せり大豆は正米に伴れて安値を呼び納會の十二圓にて三千六百叺の商用來せ

後場は休會

群山正米特電

大正十年の初相場は氣配は先つ年の初め勝を占めんと市場に聰集したる各組合員は元は旺盛裡に賣買開かれ場の内外は盛況の續出にて親儀の三味の音勇ましく正米市場は開會され次で延べの手合開かれたが定期米の安値に因り一般に人氣埼落なれども先に角觀ろの相場にて市場は頗る緩ひか呈せり(四日)

一月中限二十四圓二十二錢前末限二十四圓〇五錢現物二十五圓見當にて限先弱氣配なり(四日)

仁川正米市場

期米仕會中各地期正への氣高と共に農家の賣放ち態度を深めし正米も盾外出廻り薄に買人は自然人氣緊張して一段强調を呈し今朝は島田二等玄米二十六圓平澤三等二十四圓八十錢と始めしも阪神の氣配がに跡安氣配を呈し約一百叺以出來を見たり大豆は内川物十二圓長湍十二圓五十錢見當を唱へ麩は七錢より六錢九厘處に多少取引行はれたり

前場商内

一月中限	安米百石	二三、九〇
一月末渡	安米三百石	二三、三〇
二月中渡	安米二百石	二二、九〇
三月末限	四百石	二二、二〇
	二三〇石	二二、〇〇
	〇九八二百石	二二、一〇

大豆

産地賣物薄と春高氣分に氣配上向模様を呈し場外賣買として東京物ー東驛乘ー債十一圓十錢にて一車鐵原物本月十日渡十一圓六十五錢の附出しあり之れを標準に跡低原値を以つて一車の取組ありたり

京城穀物延取引

一般春高見越に越年したる舊臘の餅搗相場に拵な上げ過ぎたる關係か今初の市場は稍々氣疲れ模様を呈し期米の氣乘らず定刻に立會に移りたるが挨拶あり直ちに立會に至る副組長の十め結局三圓五十錢賣の聲に初一月中の二十三圓三十錢賣二圓八十錢買にて出來さに終り一月末十二圓五錢同來限には左したる良聽なく跡十錢より〇三五錢に出來し賣物海の劑に買氣旺盛を極めたり

	四日初會 寄付
當限	一、三三、一七〇
中限	
先限	
一節	
二節	
三節	
四節	
五節	
六節	一四一、四〇

現在 取組高 當限 中限 先限 一萬六千石
出來高 七萬七千七百石

東京期米特電

○四日前場 後場先限

寄付	二七、七一
二節	二七、六〇
三節	
四節	
止め	

大阪期米特電

○四日前場

當限寄付	二十六圓七十錢
同 止め	二十六圓四十二錢
中限寄付	二十七圓六十九錢
同 止め	二十七圓五十錢
先限寄付	二十八圓〇一錢
同 止め	二十七圓六十六錢
二節	二十七圓九十錢
三節	二十八圓〇九錢
四節	二十七圓八十一錢
五節	二十七圓七十四錢

朝鮮製紙株式會社

第六回決算報告 (自大正九年六月至同年十一月)

貸借對照表

借方(資産之部) / 貸方(負債之部)

科目	金額
株金	五、〇〇〇、〇〇〇
法定積立金	二一、五〇〇
支拂手形	二七、二三五、〇〇〇
銀行當座借越金	二〇〇、九九一〇
職員職工身元保證金	四八七、〇二
職員職工恩給基金	六、〇〇〇
預り金	三七、〇〇〇
掛買金	一五、四〇八、五六
支拂未濟金	五、六九〇、三五
王子製紙株式會社勘定	八〇六、三五
假收入金	四三二、八一〇
前期繰越利益金	一、四五、二七八、四〇
當期利益金	三五、六七六、六七
合計金	一二、二八九、三一九、六八

科目	金額
未拂込株金	二、五〇〇、〇〇〇
地所	二三九、六〇〇
建物及諸工作物	八八六、二三四
機械	一、八三三、四〇〇
電氣機械	三四〇、七五六
水道	五〇〇、六八六
防火裝置	四五〇、九二四
煖房裝置	七八、〇一〇
備品	七六六、五三〇
有價證券	二六二、〇二〇
掛賣金	五八九、九一〇
製品	二三八、〇〇〇
半製品	四六九、三六四
貯藏品	四、五八一、〇〇〇
山林部勘定	一二六、二〇〇
工作部勘定	六七二、一九一
假支出金	一五八、四八六
現金	二八九、三一九
合計金	一二、八九、六八

利益金處分

當期利益金	一八、五六七、六八
前期繰越利益金	五二五、五〇二
合計金	一八一、二二七、六九
内 法定積立金	七、五〇〇、〇〇
株主配當金	二五〇、〇〇〇
役員賞與金及交際費	一〇、〇〇〇
職員職工恩給基金	二、〇〇〇
後期繰越金	三五、七二七、〇九

右報告候也
大正九年十二月

朝鮮製紙株式會社

取締役會長	藤原銀次郎
專務取締役	大川平三郎
取締役	有賀長文
取締役	高田新太郎
取締役	高島菊次郎
取締役	笠原菊次郎
取締役	小野寺省二
監査役	飯田邦彦
監査役	赳顔秦

過日取締役任期滿了ニ付改選ノ結果高島菊次郎氏ヲ除キ總テ重任ス

正月の胃

飲み過ぎ喰ひ過ぎ二日醉ひれに
理想的のソレ
胃病 良藥 胃活

定價 (胃活) 壹圓、五拾錢 (胃活) 參拾錢、貳拾錢、壹圓、貳拾錢
請賣全國及海外要所の各藥店にあり
本舖 東京・大阪・山田安民藥房

賀正

安東縣大和橋通五丁目
理髮業 富士軒

小說倶樂部 創刊號

新年號

權威あるこの代表的創作を見よ

金魚 上司小劍
仙人と薔薇の蕾 沖野岩三郎
二都物語 池田大伍
鹿子木夫人 相馬泰三
こゝも心 大泉黑石
炭坑の人々 白鳥省吾

□創作評論 西川勉
□新作民謠 野口雨情 北原白秋
□文藝新聞
□文士漫畫
□文壇消息

劇 上民衆劇場
◇雞の誓討 石井香夢
◇女間者 前田曙山
◇侯爵の犯罪 永瀬謂
◇沈默の塔 草風劍謂
十二月號雜誌小說梗概 創作小說一覽表評拔華

定價六十錢 東京牛込 民衆文藝社

京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通)
入院隨意 酒井婦人病院
電話一六〇番 酒井一郎

大日本人造肥料株式會社
印 肥料朝鮮一手販賣

一、過燐酸
一、完全肥料
一、其他各種肥料

右は精々勉强可仕候間多少に不拘御用命仰付被下度尚多數御用命の節は御一報次第店員罷出で御相談可申上候

釜山埋立新町
米穀肥料商 豐田福太郎商店
電話長一七番 振替三四三八番

小店員名入用
二十歳迄の者身元保證人要す
京城長谷川町五八 天佑堂器械店 電長一〇六

測量機械迅速懇切修繕
京城太平通一丁目十三番地 李王職美術品製作所前 岩田武虎

古本無比高價買入
是非御試賣乞ふ 御一報早刻參上 本町二丁目 電話參壹九五 群書堂書店

●ほねつぎ うらみくじき
一切の治療御依賴に應ず
明治町 柔術道場

京日案内 (番外)

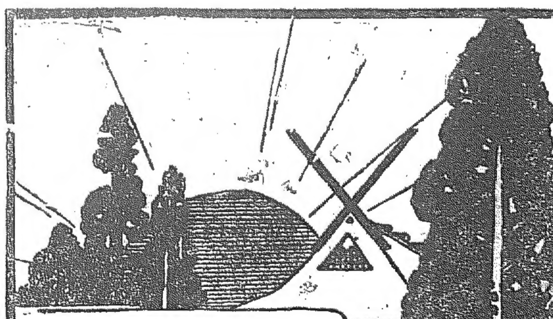
そば粉 並に卵類一切製造
御注文は迅速に不日送附仕候 電話參二參番
京城南米倉町 大塚製粉所

謹賀新年
京城本町二丁目 京城株式現物市場取引人仲買人 高松商會 高松清太

米穀雜貨貿易
鎭南浦三和町 南藤馬 電略(ミ)又(ミナミ) 長電話三七〇番

安東縣市場通六丁目
ペンキ商 吉川槌太郎

株式會社第一銀行京城支店
資本金 五千萬圓
積立金 貳千五百萬圓
京城府本町二丁目
電話 一番、六八五番、二三一番、一七一番 振替貯金京城一二三七番
頭取 佐々木勇之助
支配人 藤森忠一郎



ベルベット石鹸

大正拾年の新春を迎へ恭く需要者諸君子の健康と萬福を祝賀し奉る。

偖は本年は一層……ベルベット石鹸の御使用に因り諸君子の健康を增し、且つ其美皮膚の荒を防ぎ、益々發揮し給ふよう奉希上候 敬具

元旦

製造元 日本リーバーブラザース株式會社 神戸

舶來人形ミルク

販賣高世界一
クリームに富むが故に品質優良!
水分少きが故に價格低廉!!

朝鮮特賣景品抽籤結果發表

弊社景品附特賣に就きては格別の御引立を蒙り難有御禮申上候右當籤番號嚴正なる抽籤の結果左記の通りに相成候間此段謹告仕候也

特等	一等	二等	三等	四等	五等
23	94	34	85	4	134
	250	81	86	5	241
	342	146	114	6	244
	404	219	116	7	254
	454	259	132	18	271
		266	144	20	94
		353		33	300
		355		39	305
		396		51	316
		403		89	427
				115	461
				128	469
					523
					536

135 155 169 170 187 191 205 230 252 256 282 289 287 299 308 321 334 354 355 367 382 407 410 422 450 460 475 478 481 492 493 500 509 521 524 529 530 542

最品種類 景品券二千二百枚ニ對スルモノ

特等	金貳拾五圓也 (商品券)	四本
壹等	金拾圓也 (同右)	貳拾本
貳等	金五圓也 (同右)	四拾本
參等	金貳圓也 (同右)	八拾本
四等	金壹圓也 (同右)	貳百本
五等	金五拾錢也 (同右)	殘り全部

▲景品券はイ、ロ、ハ、ニの四組として各組五百五拾枚を發行し當籤番號は各組共通に適用せらるべきものに御座候
▲景品引換期間は大正十年二月二十八日迄以後は無效
引替は從來の御買附先又は直接左記弊社へ御申込被下度候

大正九年十二月廿日
横濱市山下町二十五番地
ネッスル及アングロスヰス煉乳會社

日本郵船仁川出帆

△大連太沽牛莊行
高砂丸 月 日正午出帆
濟州丸 月 日正午出帆
花咲丸 月 日午前出帆

都合ニ依リ早發スルコトアルベシ 本船出港一時間前ニ乘船サルベシ 客及貨物ノ船脚ヘ便宜ヲ計ル

仁川海岸町一丁目 郵船會社出張所

共同汽船仁川出帆

▲芝罘大連行
第二共同丸 十一月 日正午出帆

朝鮮鐵道主要驛にて荷客連絡取扱 大連にて前島行定期船に接續

阿波共同汽船株式會社
仁川代理店 本町四丁目 電話一四三番 野口商會
元山代理店 田口回漕部 電話二四七番
京城取次店 南大門 河村運送店 電話一〇八八

尼崎汽船仁川出帆

▲群山、木浦、下關、神戸、大阪行
赤城丸 十二月 日後五時出帆
一心丸 十二月 日後六時出帆
江丸 十二月 日後五時出帆

印 船客御斷

仁川海岸町 二番 杉田回漕部 電話五九番

五光汽船出帆

元山、西湖津、新浦、城津、清津行
鎭南浦、鎭城 日後五時釜山出帆
日夜五時釜山出帆 神戸 大阪
日後五時釜山出帆 元山出帆

釜山 大池回漕部
元山 田口回漕部

朝鮮郵船定期

元山出帆(取扱店吉田運輸會社)
清津行 丸 月四日後 大阪
浦潮行 丸 月八日 江原道
雄基行 丸 月廿九日 敦賀
京城行 丸 月廿日 新浦
立神行 丸 月廿七日 津

釜山出帆(取扱店大池回漕部)
雄基行 丸 月二十日 大邱
京城行 丸 月三十日 下關
平會行 丸 月四日 新浦
宗山行 丸 月廿六日 釜山
昌城行 丸 月廿七日 濟州
海州行 丸 月廿七日 木浦

木浦出帆(取扱店山野回漕部)
櫻島行 丸 月廿九日 大阪
雄基行 丸 月廿八日 大阪
公州行 丸 月廿一日 濟州
公州行 丸 月三十日 多島海

仁川出帆(取扱店龜川回漕部)
櫻島行 丸 月廿七日 海州
雄基行 丸 月廿九日 大阪
發州行 丸 月二十日 木浦
鎭江行 丸 月六日 鎭南浦
盆德行 丸 月廿二日 海州

朝鮮郵船株式會社
電話 二三一番 一八四番 二三四番

●京城取扱所 南大門驛前 松原組
●元山出張所 電話二番
●京城出張所 ●元山出張所 ●常盤●釜山支店 佐藤回漕部

大阪商船出帆

群山、木浦、大阪行
天草丸 月七日後四時出帆
智丸 月九日後四時出帆
△石見丸
△南浦行
長良川 一月六日正午出帆

神戸行
宮島丸 二十九日後九時出帆
門司丸 一月二十日後一時出帆
宮島丸 三十日

上海基隆打狗行
基隆丸 一月十三日正二十時出帆

歐洲航路 一年四回 每月四回
南米行 一年四回
濠洲行 每月一回

印 時間前に御乘船被下度候
▲御注意 ①船客は本船出帆一時間前に御乘船被下度候

大阪商船株式會社仁川支店 電話一二番 二〇番 五〇番

京城取扱所 南大門驛前 內國通運株式會社
仁川支店 本町二丁目 電話二三〇 八番
仁川取扱所 京城內組 電話二七 二番

曙（あけぼの）

第三十四回

德田秋聲

（挿畫）近藤紫雲

温泉へ（4）

浴後の絢子は、ゆつたりした氣持になつて、鏡臺の前に坐りながら暫らく化粧に餘念がなかつた。部屋は奇麗に掃除されて開放した窓から初めいた風がそよ〳〵と流れ込んでゐた。朝の氣分は何となく彼女の氣持を緊張させてゐた

しかし、然うしてゐる中にも實家の財政のことや、お須賀の事を思ひ出すと、不意に彼女の明るい心が曇り〳〵するのであつた

『でも、なるようにしかならない』然う心に思ひながら』絢子は見る〳〵美しくなつて行く自分の顔に、うつとりと見入つたりした

輕い朝飯が濟んでから、絢子は寢不足の腦頭を懈く感じながら、何となく氣まで重々しくさせてゐた

『お嬢さま、また鯉を見てまゐりませう。』

『然うね』お縫が然う言つて、貞子を連れ出してからは、絢子は獨り部屋の眞ん中に膝を崩して何を考へるともなくぼんやりしてゐた

すると、そこへ女中が入口へ來て手をついた

『旦那樣、白井さんと被仰る方があの些とお目にかゝりたいと被仰つてゞすけど、如何いたしませうですか。些と伺つて見てくれと被仰るのですが……』

絢子ははつと思つたが、わざと落ち着いた樣子をして『あの私に？』と問いた

『はあ』女中は眞面目に答へた

『どちらに在つしやるの』

『こちらの、あのう、別の新館の方にゐらしやる方でございます』

『然う』絢子は些と頷いて直ぐ『ぢや、どうぞ』と應へた

不意に向ふから訪ねられたので、彼の女は不安なような氣がした。しかし白井の意思を誤解してはならないと考へたので、早速然う返辭をしたのであつた

女中が引返して行くと、絢子は急いでそこらを取片付けた。そして些と姿見の前へ行つて衣紋を繕つたり、髮の容を直したりした。何となくそは〳〵するやうな氣持を、强て、付けるようにして、彼女は廊下の跫音に聽き耳を澄てゝゐた

やがて、白井は女中に案内されて絢子の前に押し出しの好い姿を現した

『やあ』彼は部屋の入口で、然と笑つて聲をかけた

『さあどうぞ、づつと此方へ』

絢子はちらりと、深みのある目色で其顔を見ると、心持ち顔を赧らめた

白井は書生の頃とは左まで變らぬ顔容をしてゐた。身にはもたふさし元日の朝 琉球のような紺に、錢無地の絽の羽織を着てゐた。入ると、から何處かしら威嚴が加はりて來たことを、絢子は職業的に感じた。女中は座布團を直して、客へ侑めると直ぐ出て行つた

『はあ、ほんと久闊でございました』

『實に久し振でしたね』

『一別以來の改まつた挨拶を交すと、二人は初めて沁々と晴れやかな顔を見合せた

『あなたが當地にお出でのとを昨夜始めて知つたのですが、途中ではあり些と樣子がお變りでしたからね、若しかそれでも人違いぢやないかと思つて。今朝宿の者に訊ねて見たところが然うだと云ふんでね、それでは些とお目にかゝらうと然う思ひましてね』

『さようでございましたか』

絢子は硬くなつて、伏目がちに『私も何ですか、貴方によく似た方だと然う思ひましたけれど、御樣子が隨分變つてゐらつしやるものですから、聲もおかけしませんで失禮いたしました』

『いゝね』と白井は袂から巻煙草を出しながら『どうか、お臉が悪くでも……』

『はあ、いゝね何に少し肋膜を痛めてをりましたけれども、もう宜しいんでございますの』と絢子は些と顔を上げて、寂しく笑つた

新春雜吟

順安　かね子
朝靄に霧の行衛を見遁れる池の狂女の酔かなしも

德島市、　大谷　稔
愚かなる女心を君に見ぬサフランの香のつよき朝あけ

京城　中尾　嶽童
色街の晨は巷の隠井に明け追羽子す なる鋼姫に葬る

逃川　白桃園
朝戸あけうちみる空のたゞ中に雲氣の螺のなほもれむれる

鎭南浦　哀之介
裂ひさつ無き君空を雁の群音して飛べり初秋の朝

賀州　落原　柴水
移り住みて覚き荒野な開かんと思ひたときて朝戸な出つ

東京市　有田德太郎
わが窓に今朝ゝ晴れたる山の見ゆわれを見まもるものゝ如くに

釜山　朱雀　瑞子
かろ〳〵と此の朝早く街ゆくは絆纒の人啖の人

金海　廣瀨　鴎舟
わだつみの底にちらばる青石の上な流るゝ春のあかるさ

〇

龍山　岡本　鳥石
若さ流るゝ春の日光のなかにうさ〳〵眠るたましひ

仁川　田邊　鍵仙
うちわたす街の柳の青く芽をふきて何物か心の底にそさふれて喜びやまず元旦の朝

鎭南浦　足羽京之介
何處よりか草の香ゆるく流れ來ぬ朝露ふかき六月の丘

京城　本庄　新村
拜ろがみて消しきあまり久しくも双手垂れたる初日の出かな

忠北　神田　花心
かなしさは元日の朝しみ〳〵と吾が來し跡に顧みる時

龍山　楠目五三郎
新しき年のおさめけ兵士等は營庭出で〻ひがしな拜む

奉天　入江のぼる
御社の松の木の間をくゞりて行く神女のたふとし元日の朝

平壤　菅原　初江
朝つゆをやごして清くほゝゑみゐき百合は歌ふ如くに

竹泉
なみもなき迎日灣の灣頭に初日をがむ我ここま人

演藝案内

大正館
非 可
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
電話八七二
來る一月元旦より新春特別大興行
實寫『京城自轉車乘』の盛況
新派悲劇『小さき靴』長尺
日活向島派山本嘉野一派新撮影

春駒　全六卷
父母な知らずす放浪家により成長せる可憐な青年の苦學な骨子させる悲劇

傑劇　女は魔性　全五卷
パラマウント名映畫
さき者女なりされど又汝は損晩すべき弱力盛ぎ魔術界の一大奇すさも稱す

前篇　岩見重太郎　全六卷
日活第二部尾上市川姉識大飛躍
續大活劇全篇十二卷の內
人に投したる姉識優が絶大の物力さて非凡の活劇は茲に連續大活劇として本篇の完成を告げたる大正雄篇重太郎幼年時代より道場破り迄（つゞき）は六日より
◎元旦より九日迄晝夜開館
◎本社發行中從來發行の招待券御斷

黄金館
本町二丁目
電話一六二七
一月元旦よりキネマ界レコード破り二大連續寫眞上場
△神秘的連續大活劇
エドワイン・スチブンス氏主演
魔人
紐育市民な戰慄恐怖の淵に陷れし魔人カフラカンは勇敢無比なるケンプ警官の爲めに第一の根據地を襲撃せられ憤恨の極第二の根據地に於て再び震天動地の大事件を卷起す凄絶な奇蹟の活劇なり

世界の眼
△連續大活劇 全三十卷の內毎週四卷上場
『世界の眼』とは不思議にもクレオパトラの寵愛せられた者は不思議にも悉く殺されて了ふと云ふ古代習行を手に入れた世にも珍らしい奇蹟的のこの犯罪

緣　全五卷
△新派現代劇
古杉老樞多くこの間隠れに阪路な見る〳〵又渓谷な望み斷崖絶壁の下に流るる河水に朝日輝き自然の風景に富める一村落美しい花が咲く
中村五識且傑作

井伊大老　全五卷
△大問題の舊劇

浪花座
本町五丁目電車終點
電話二三二八番 二七四九番

大阪歌舞伎
嵐信藏
中村玉六一座

〇毎日午後五時開場
本町五丁目電車終點
浪花座
電話二三二八番 二七四九番

喜樂館
本町一丁目
有樂
電話五九七番
館收
新年一日より新年特別三大映畫封切
コンスタンチン御旅行
宮崎女の智慧
日活東京向島派特作品
新派悲劇

相合傘　全五卷
名優伊井河合一派當り狂言
露の如く涙ぐましい春雨の中な若い男女の相合傘互にさゝやく戀の睦言

連續冒險猛獸大活劇

虎の足跡　全卅一卷
劇は興味の高潮な現わして見る人なしてに手に汗を握らしむる
說明者小石凉花石田旭花辯演
阪日日新聞連載小說

尾張三郎丸　全十武卷の內
連續舊劇にらみ鬼しの大親傑談
日本三景の一丹後天の橋立な背景として猛優松之助扇太郎によりて完成せし空前絶後の大映畫にして豪傑中の豪傑然かも身は尾張大納言の子とせる三郎丸が槍の名手の寶唄されし生涯な近畿半國に渡り連れ歩く下を漫遊する痛快無比の新作舊劇

壽館
本町七丁目
電話八五
一番目笑劇　愛の結晶　二幕
二番目喜劇　辞な日那　一幕
三番目社會劇　玉の輿　二幕
四番目喜劇　影法師　一幕

浪花館
明治町
電話一六〇番
◎新春第一回一月一日より開演
▲橘家圓三一行來る
桂藤吉、三遊亭遊玉、同若扇、信濃や東市、橘家小圓、三升家小勝太郎、千代の同同ノ助、立花家扇遊、三遊亭小奴、八木秋家、富春、桂枝月、橋本、橘家圓三、荒井

浪花座
本町五丁目電車終點
電話二三二八番
來る一月五日より
歌舞伎若島座一座
十八番狂言　三の替り
三國傳來　玉藻前
切狂言　長忠長五五　入幡引まで

新年號

新演藝

大正九年　劇壇の總勘定　芝居合評會

五十三次芝居見立繪：水島爾保布

オフセツト十色刷口繪
私の好な芝居の人々
鏑木清方、山村耕花、上村松園、栗原玉葉、木谷千穗、水島爾保布、伊東深水、山口草平、森田久、益田玉城
其他三色三色コロタイプ及寫眞五十餘頁

俳優人氣分布圖
京都　仙臺
名古屋　秋田
靜岡　函館
岐阜　岡山
高知　小樽
德島　札幌
長野　長崎
水戶　下關
金澤　松江

其他執筆者
長田秀雄、秋田雨雀、久保田万太郎、島村民藏、池田大伍、坪内士行、岡鬼太郎、本間久雄、岡村柿紅、岸田辰彌……延若

歌舞伎國人物誌
久保田米齋
世にも稀なるお姫樣：中村雀右衛門
役者がお姫樣になる時：河竹繁俊
鳴神の雲の絶間姫：三宅周太郎
日高川の清姫：灰野庄平
二十四孝の八重垣姫：山崎紫紅
鎌倉三代記の時姫：本山荻舟
玉藻前の金藤姫：田村西男
新薄雪物語の薄雪姫：石割松太郎
山三の中將姫：邦枝完二
金閣寺の雪姫

芝居の見たる興行主
田村壽二郎、山本久三郎、大谷竹次郎、小泉丑治、白井松次郎……菊五郎、幸四郎、左團次、彥三郎

演藝史に現はれた戀の挿話
伊原靑々園

芝居見たまゝ
井椅佐平、竹柴秀一、松長照夫
毛谷村、平將門、天下茶屋

漫遊國の春
近藤浩一路、細木原青起、清水勘一、池部鈞、中西立頃
浄瑠璃新曲、帝劇狂言、濱花座狂言

現代俳優餘技展覽會
茶の湯　中村歌右衛門
馬術　村田かく子
三味線　尾上榮三郎
謡曲　阪東三津五郎
清元　市川猿之助
小唄　中村吉右衛門
樂器　森りつ子
馬術　尾上梅幸
謡曲　中村魁車
書畫　片岡我童
繪畫　中村福助

彩色 人情本　泉鏡花
火事は冷えた娘の恋を、何いなせの同見が、情然火の手に降りる出會ひ頭らの、怨鶯な美人と取換はす言葉に、作者の獨壇上

定價壹圓五拾錢
東京玄文社發行
振替東京一四一七七

TRADE MARK

Brewer and Dealer of the Japanese Sake

"HAKUTSURU".

KANO GOMEI KAISHA,
NO. 22, YOKOBORI HIGASHIKU,
OSAKA.

新年の御慶を目出度申上ます
本年も不相變御用願ます

CABLE ADDRESS:
"Hakutsuru Osaka."
TELS. NO. 2670.
2678.
676.
678.

名物三福壽司
御料理仕出し
安東縣市場通四丁目
電話四七四番

謹賀新年
株式現物商
京城明治町二丁目
電話六七三番
北村友一郎
本年も不相變御引立願上候

▲名古屋より朝鮮及南滿洲
『▼北鮮行貨物輸送に就て!!』
▲朝鮮南滿洲行は關釜連絡船を介し鐵道輸送よりは仙鮮郵船〓命令航路に接續通し船荷證を發行す！
北鮮は名古屋敦賀間鐵道敦賀より敦賀を經て貨物の取扱に就ては十有餘年間經驗を有し取扱の親切と敏速なることは内鮮各地の御愛顧を享ける所以にして各位の御同情の厚きを深く感謝する處に有之候搗而は地行貨物は名古屋より直送し前もて名古屋に於て取引換證を發行仕り取扱料極めて低廉に仕り候間御引立の程偏に奉願上候
尚當市に於ける商品値段確實なる商品等御取引上必要なる要項を御依囑により調査御報告可仕候間御遠慮なく御照會被成下度候
鐵道省公認運送取扱店
名古屋市中區笹島町貳丁目拾五番地（名古屋驛前）
當會社の創立は明治十九年なり
運搬合資會社

資本金壹千萬圓
頭取　安田善三郎
京城本町二丁目
株式會社百三十銀行京城支店
電話長五八番・一九四番
振替貯金京城一二三番
銀行一般の業務幷に各種御便利に御取扱申候
爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有

賀正

本年も不相變家庭料理の美味と滋養を增進すべく味の素の御愛用偏に奉願候

最新調味料
味の素

株式會社　鈴木商店
東京　大阪　名古屋
上海・紐育・倫敦

活々く
若々く

さして生きて行かねばならぬ婦人の前に其營養飲料として葡萄酒赤玉あり皮膚の生彩も筋肉の豐麗も唯赤玉の一杯にある！を知り給へ

赤玉ポートワイン

類似品多し●赤玉と御指定を乞ふ